

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	特別養護老人ホームさくらホーム広野【事業所番号：0670800911】		
介護サービスの種類	介護福祉施設サービス	定員数	80名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN [導入時期] 令和6年1月15日 [導入台数] 80台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	施設環境としては、構造上、①ユニット間の見守りが困難。②ユニット内でも、居室同士が離れており、共有の廊下も直線ではなく、入り組んでおり、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを感じると答えた職員は、96.6%。眠り SCAN 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、93.3%となった。以上の結果と上記の①～②から、1・2階 8 ユニット 80 床に対し、80 台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ（眠り SCAN 80 台導入） ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、タブレットで状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットをデータで検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCAN の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	眠り SCAN 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	---

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年8月1日～ 令和5年8月20日	施設長、介護係長、ユニットリーダーを中心に、見守り業務の状況分析・問題点の洗い出しを実施し、機種選定・導入計画の検討。導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）の選定、実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取を実施。結果を事業計画書に反映。		施設長ほか
令和6年1月15日 ～令和6年1月31日	機器導入。開発メーカーからの取扱い説明及び職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）を実施。		機器設置者 施設長ほか
令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	導入によるケア方法（見守り業務）の見直しを予定。		施設長ほか
令和6年2月16日 ～令和6年2月28日	1ヶ月後での効果検証のためのアンケートを実施。 実績報告。（1年目）		施設長ほか
令和7年2月15日 ～令和7年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（2年目）		施設長ほか
令和8年2月15日 ～令和8年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（3年目）		施設長ほか

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	短期入所生活介護事業所さくらホーム広野 【事業所番号：0670800903】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	20名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN [導入時期] 令和6年1月15日 [導入台数] 20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	施設環境としては、構造上、①ユニット間の見守りが困難。②ユニット内でも、居室同士が離れており、共有の廊下も直線ではなく、入り組んでおり、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを感じると答えた職員は、85.71%。眠り SCAN 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、85.71%となった。以上の結果と上記の①～②から、1・2階2ユニット20床に対し、20台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ（眠り SCAN 20台導入） ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、タブレットで状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットをデータで検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCAN の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	眠り SCAN 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	---

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年8月1日～ 令和5年8月20日	施設長、介護係長、ユニットリーダーを中心に、見守り業務の状況分析・問題点の洗い出しを実施し、機種選定・導入計画の検討。導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）の選定、実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取を実施。結果を事業計画書に反映。		施設長ほか
令和6年1月15日 ～令和6年1月31日	機器導入。開発メーカーからの取扱い説明及び職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）を実施。		機器設置者 施設長ほか
令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	導入によるケア方法（見守り業務）の見直しを予定。		施設長ほか
令和6年2月16日 ～令和6年2月28日	1ヶ月後での効果検証のためのアンケートを実施。 実績報告。（1年目）		施設長ほか
令和7年2月15日 ～令和7年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（2年目）		施設長ほか
令和8年2月15日 ～令和8年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（3年目）		施設長ほか

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	特別養護老人ホームさくらホーム山形【事業所番号：0670103530】		
介護サービスの種類	介護福祉施設サービス	定員数	80名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN [導入時期] 令和6年1月20日 [導入台数] 80台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	施設環境としては、構造上、①個室ユニット型のため、一度の訪室で1名の状態把握しかできない。②ユニット内でも、トイレによって居室同士が離れており、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを感じると答えた職員は、87.5%。眠りSCAN導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、96.88%となった。以上の結果と上記の①～②から、3・4階8ユニット80床に対し、80台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ（眠りSCAN 80台導入） ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、タブレットで状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットをデータで検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠りSCANの運用にも慣れ、ご利用者様のADLに合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	眠りSCAN導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	---

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年8月1日～ 令和5年8月20日	施設長、副施設長、ユニットリーダーを中心に、見守り業務の状況分析・問題点の洗い出しを実施し、機種選定・導入計画の検討。導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）の選定、実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取を実施。結果を事業計画書に反映。		施設長ほか
令和6年1月20日 ～令和6年1月31日	機器導入。開発メーカーからの取扱い説明及び職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）を実施。		機器設置者 施設長ほか
令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	導入によるケア方法（見守り業務）の見直しを予定。		施設長ほか
令和6年2月16日 ～令和6年2月28日	1ヶ月後での効果検証のためのアンケートを実施。 実績報告。（1年目）		施設長ほか
令和7年2月15日 ～令和7年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（2年目）		施設長ほか
令和8年2月15日 ～令和8年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（3年目）		施設長ほか

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	短期入所生活介護事業所さくらホーム山形 [事業所番号: 0670103548]		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	20名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN [導入時期] 令和6年1月20日 [導入台数] 20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース (契約期間 年 月～ 年月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	施設環境としては、構造上、①個室ユニット型のため、一度の訪室で1名の状態把握しかできない。②ユニット内でも、トイレによって居室同士が離れており、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを少し感じると答えた職員は、100%。眠り SCAN 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、87.5%となった。以上の結果と上記の①～②から、2階2ユニット20床に対し、20台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCAN 20台導入) ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、タブレットで状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットをデータで検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCAN の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCAN 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果 (訪室への時間等)、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
-------------------------------------	--

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年8月1日～ 令和5年8月20日	施設長、副施設長、ユニットリーダーを中心に、見守り業務の状況分析・問題点の洗い出しを実施し、機種選定・導入計画の検討。導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）の選定、実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取を実施。結果を事業計画書に反映。		施設長ほか
令和6年1月20日 ～令和6年1月31日	機器導入。開発メーカーからの取扱い説明及び職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）を実施。		機器設置者 施設長ほか
令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	導入によるケア方法（見守り業務）の見直しを予定。		施設長ほか
令和6年2月16日 ～令和6年2月28日	1ヶ月後での効果検証のためのアンケートを実施。 実績報告。（1年目）		施設長ほか
令和7年2月15日 ～令和7年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（2年目）		施設長ほか
令和8年2月15日 ～令和8年2月28日	効果検証のアンケート結果に基づいた業務改善の取組検討。（3年目）		施設長ほか

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	株式会社 ユートピアライフ		
事業所名	介護付有料老人ホームやすらぎ苑 【事業所番号：0670401108】		
介護サービスの種類	(予防)短期入所生活介護	定員数	3名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名]離床起き上がりセンサー アンシェル(積水化学工業(株))		
	[導入時期] 令和5年12月15日 [導入台数] 56台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	【現在の問題点】 入居者の平均年齢が90歳を超え、開設当初に比べ、看取りの方や体調不良者・転倒・夜間巡回訪室による安眠不安等夜間の職員が少ない時間に見守りが必要な方が増えています。 夜間、夜勤者一人一人が複数の居室を同時に見守ることができるので、職員の負担軽減と介護サービスの効率化ができます。 働き方改革が叫ばれる中、モニターでリアルタイムに状況を把握し、データ分析による科学的根拠に基づいた科学的介護サービスを速やかに提供することができます。 夜勤者も仮眠が取れ、精神的負担も軽減でき、また、看取りや体調不良の方達に対して、バイタル異常をアラームで知る事で、異変にリアルタイムに対応し、主治医等に連絡ができます。 巡視せず離れて見守りができるので入居者も安心して眠れます。 入居者にとっても、職員にとっても win・win の関係が築けるのではないかと考えております。 【導入台数の妥当性】 当施設においては10年以上前からICT化を推進し、タブレットも導入し、記録の効率化、業務の効率化、科学的介護の充実化を進めており、今回の導入台数に関しては科学的介護を進めるうえで必要不可欠の数だと思っております。 【職員との導入意義の共有】 夜勤帯は、介護職員が手薄であり、看取りや体調不良の方や巡回訪室による睡眠不安での昼夜逆転になり易い方々の安心睡眠の方法を従前より、探っておりました。そしてアンシェルという離床起き上がりセンサーがある事を知りました。 当施設では10年以上前から機能訓練を充実させ、運動をして、食事を美味しく食べ、安心して睡眠をとり、楽しい毎日を過ごしていただくにはどうすればよいかを最大の課題としてまいりました。 これを導入する事により、この課題がさらに良い方向に推進され、食事・機能訓練・入浴・睡眠を今までより一層分析し、より科学的なそして高齢者に寄り添った機能訓練計画書やケアプランを		

	作成し、科学的な介護サービスの提供ができることを職員と共有できることを確信しております。 また、この導入により、職員の業務の効率化が図れ、職員の自信ややる気・安心感も出て、業務がし易くなると思います。
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 機器のデータ分析による情報の共有化 ○2年目 データ分析によるケアプランや機能訓練計画書の改善 ○3年目 データ分析に基づいた科学的介護の推進
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 他職種職員による情報の共有化の推進 ○2年目 よりシステマティックな看護・介護の向上と利用者の生活満足度のアップ ○3年目 介護職員の負担軽減と介護の充実と質の向上
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、収支の改善等について、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等 介護職員や利用者の満足度の検証の為の定期的な状態報告書の作成

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和4年9月1日～ 令和5年3月31日	業務の状況分析・問題点の洗い出し→施設内の検討委員会で議論		
令和5年4月3日～ 令和5年4月7日	導入担当者・チーム体制整備→検討委員会内で導入担当者を選定		
令和5年4月10日～ 令和5年5月31日	機種選定・導入計画の検討→資料収集、デモの実施		
令和5年6月1日～ 令和5年6月16日	実際に機器を使用する職員の意見聴取→デモ参加の職員へアンケートの実施		
令和5年8月1日～ 令和5年8月25日	事前協議書の作成、提出		

令和5年11月1日～	補助金の内示 業者選定・発注(補助金交付 日決定後)		
令和5年12月15日～ 令和5年12月31日	職員の習熟及び教育・研修計 画→導入日の確定、導入時の 操作説明会を実施		
令和6年3月1日～ 令和6年3月29日	効果検証の実施→アンケート を実施し効果の検証を行い、 業務改善の取組		
令和7年3月1日～ 令和9年4月30日	毎年効果検証の実施、業務改 善の取組を行い、状況報告 書・事業実施状況調書を提出		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	株式会社 ユートピアライフ		
事業所名	介護付有料老人ホームやすらぎ苑 【事業所番号： 0670401108】		
介護サービスの種類	(予防)特定施設入居者生活介護	定員数	63名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	〔製品名〕離床起き上がりセンサー アンシェル(積水化学工業(株))		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>【現在の問題点】</p> <p>入居者の平均年齢が90歳を超え、開設当初に比べ、看取りの方や体調不良者・転倒・夜間巡回訪室による安眠不安等夜間の職員が少ない時間に見守りが必要な方が増えています。</p> <p>夜間、夜勤者一人一人が複数の居室を同時に見守る事ができるので、職員の負担軽減と介護サービスの効率化ができます。</p> <p>働き方改革が叫ばれる中、モニターでリアルタイムに状況を把握し、データ分析による科学的根拠に基づいた科学的介護サービスを速やかに提供することができます。</p> <p>夜勤者も仮眠が取れ、精神的負担も軽減でき、また、看取りや体調不良の方達に対して、バイタル異常をアラームで知る事で、異変にリアルタイムに対応し、主治医等に連絡ができます。</p> <p>巡視せず離れて見守りができるので入居者も安心して眠れます。</p> <p>入居者にとっても、職員にとっても win・win の関係が築けるのではないかと考えております。</p> <p>【導入台数の妥当性】</p> <p>当施設においては10年以上前からICT化を推進し、タブレットも導入し、記録の効率化、業務の効率化、科学的介護の充実化を進めており、今回の導入台数に関しては科学的介護を進めるうえで必要不可欠の数だと思っております。</p> <p>【職員との導入意義の共有】</p> <p>夜勤帯は、介護職員が手薄であり、看取りや体調不良の方や巡回訪室による睡眠不安での昼夜逆転になり易い方々の安心睡眠の方法を従前より、探っておりました。そしてアンシェルという離床起き上がりセンサーがある事を知りました。</p> <p>当施設では10年以上前から機能訓練を充実させ、運動をして、食事を美味しく食べ、安心して睡眠をとり、楽しい毎日を過ごしていただくにはどうすればよいかを最大の課題としてまいりました。</p> <p>これを導入する事により、この課題がさらに良い方向に推進され、食事・機能訓練・入浴・睡眠を今までより一層分析し、より科学的なそして高齢者に寄り添った機能訓練計画書やケアプランを</p>		

	作成し、科学的な介護サービスの提供ができることを職員と共有できることを確信しております。 また、この導入により、職員の業務の効率化が図れ、職員の自信ややる気・安心感も出て、業務がし易くなると思います。
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 機器のデータ分析による情報の共有化 ○2年目 データ分析によるケアプランや機能訓練計画書の改善 ○3年目 データ分析に基づいた科学的介護の推進
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 他職種職員による情報の共有化の推進 ○2年目 よりシステマティックな看護・介護の向上と利用者の生活満足度のアップ ○3年目 介護職員の負担軽減と介護の充実と質の向上
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例)介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、収支の改善等について、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容を 介護職員や利用者の満足度の検証の為の定期的な状態報告書の作成

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和4年9月1日～ 令和5年3月31日	業務の状況分析・問題点の洗い出し→施設内の検討委員会で議論		
令和5年4月3日～ 令和5年4月7日	導入担当者・チーム体制整備 →検討委員会内で導入担当者を選定		
令和5年4月10日～ 令和5年5月31日	機種選定・導入計画の検討→ 資料収集、デモの実施		
令和5年6月1日～ 令和5年6月16日	実際に機器を使用する職員の 意見聴取→デモ参加の職員へ アンケートの実施		
令和5年8月1日～ 令和5年8月25日	事前協議書の作成、提出		

令和5年11月1日～	補助金の内示 業者選定・発注(補助金交付日決定後)		
令和5年12月15日～ 令和5年12月31日	職員の習熟及び教育・研修計画→導入日の確定、導入時の操作説明会を実施		
令和6年3月1日～ 令和6年3月29日	効果検証の実施→アンケートを実施し効果の検証を行い、業務改善の取組		
令和7年3月1日～ 令和9年4月30日	毎年効果検証の実施、業務改善の取組を行い、状況報告書・事業実施状況調書を提出		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	オーリンク株式会社		
事業所名	グループホームあさひ【事業所番号：0672300431】		
介護サービスの種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護	定員数	18名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] エスパシアシリーズ KA-N1471J ナースコール中継ユニット ウレタンフォームマットレス KE-253 ベッドサイドレール KS-161G [導入時期] 令和 6年 2月 28日(予定) [導入台数] 15台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	認知症の利用者で、就寝中に離床する方が増えてきている中で定期的な巡視だけでは難しくなっており、不定期での訪室等による職員の身体的負担が増えている現状を踏まえ、本件機器を導入することにより、見守り機能を強化し、効率的に訪室に繋げることにより、特に夜勤職員の身体的負担の軽減を図る。		
機器を導入することにより 達成する目標(機器導入 の翌年から3年間、年度 毎)	○導入後(翌年)1年目 当該機器の操作方法を習得することにより、利用者毎に、最適な訪室頻度を確立する。 ○2年目 前年度に確立した訪室頻度に応じ、実際に運用し効果を都度検証していく。 ○3年目 2年目と同様の取組を継続し、より最適化を図る。		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 利用者毎の最適な訪室頻度を確立することで、利用者の就寝時におけるより詳細なパターンを把握できる。 ○2年目 上記の把握をすることで、特に夜勤時における職員の身体的負担の軽減が図れる。 ○3年目 2年目と同様の取組を継続していくことで、身体的負担のさらなる軽減が見込まれる。		
効果検証の方法(効果に関 するデータを客観的な評 価指標に基づいて記録)	利用者のケア記録にその旨を記載することで、軽減の度合いをより具体的に把握することができる。		

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和5年8月	事業所内における認知症利用者対応における現状把握	0円	
令和5年9月	現状把握した内容を踏まえた機器選定等の対応策検討	0円	
令和5年9月	対応策(案)を介護職員間で意見徴収し、対策及び選定機種を決定	0円	
令和6年2月(予定)	本件機器の導入・運用開始	4,161,500円	
令和6年3月(予定)	本件機器導入後の習熟度合いを考慮し、必要に応じて手順書の作成、操作指導等の実施	0円	
令和6年4年(予定)	前月の状況等を踏まえ、必要に応じたケア方法や巡視方法の見直し(以下適宜実施)と効果検証	0円	
令和7年3月(予定)	令和6年度全体を通した効果検証の実施	0円	
令和8年3月(予定)	令和7年度全体を通した効果検証の実施	0円	
令和9年3月(予定)	令和8年度全体を通した効果検証の実施	0円	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 川西福祉会		
事業所名	特別養護老人ホーム そよ風の森 【事業所番号：0672600152】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ND ソフトウェア Vital Beats [導入時期] 令和 6年 1月 [導入台数] 13台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	当施設は平屋の従来型特養で回路型になっており、現在、夜勤者 2名で 50 人の入所者の支援を行っている棟が 2 つある。夜間の見守りについて 30 分～1 時間おきに訪室しているが、職員の身体的負担や精神的負担が大きい。センサーマットを利用しているが、足に触れたりするだけでも鳴ったり、マットが気になる入所者もいる。バイタルビーツを導入することで、入所者の情報（睡眠、覚醒、起き上がり、離床、呼吸数、心拍数）をリアルタイムで可視化が出来ることにも適切な時間で訪室出来ることで職員の身体的や心理的負担軽減を図る。また、ご利用者様の安眠を妨げていた可能性もあったため、睡眠状態を把握することで安眠につながる。今現在 50 人中 6～7 台のセンサーマット使用しているため、13 台導入が妥当と考える。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から 3 年間、年度毎）	○導入後（翌年）1 年目 導入機器の使用方法について職員が周知する。要観察入所者の状況を把握し、安全性を向上させる。職員の負担軽減。 ○2 年目 導入したことでの安全性の検証と入所者への効果検証、サービスの質の向上、職員負担軽減。介護人材定着。 ○3 年目 さらなる安全性の検証とサービスの質の向上。介護人材定着。		
期待される効果等	○導入後（翌年）1 年目 夜間の転倒等の事故減少。モニター確認することでの確な訪室により、職員の負担軽減、業務の効率化。 ○2 年目 介護サービスの質の向上、働きやすい職場づくり、介護人材定着 ○3 年目 介護サービスの質の向上、働きやすい職場づくり、介護人材定着		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	身体拘束適正化委員会で導入前後の評価、検証等を行う。
------------------------------------	----------------------------

事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和 5 年 4 月～5 月	業務の状況分析・問題点の洗い出し 導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）事業計画に反映  身体拘束適正化委員会にて課題分析、導入、効果、検証を行っていくこととする。（ただし事故防止や看取り期等での使用も出来る為、入所者の状態や使用用途によって、検討する委員会が変わる。）  夜間帯、少ない職員で入所者を見守ることになり、職員の身体的精神的負担や不安がある。センサーマット使用しているが、誤作動でセンサーに振り回されることもあった。モニターを依頼され使用したところ、入所者の状態が分かりやすく良かった。		
令和 5 年 6 月～7 月	機種選定・導入計画の検討 実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取  入眠状況の可視化のための機器について情報を収集し、職員にも意見を聴取しながら導入に向けて検討する。  業務の負担軽減や身体的精神的負担の軽減につながること		

	や、認知症入所者の生活のリズムの改善や根拠に基づく認知症ケアにつながることを期待する。		
令和5年8月	事前協議書の作成、提出		
令和5年10月	補助金の内示		
令和5年11月	機器導入時期 補助金交付決定後速やかに導入する。		
令和6年1月～2月	職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等） 機器導入  機器導入の使用方法についての説明会を行い、職員に周知する。		
令和6年2月～3月	導入によるケア方法の見直し予定  身体拘束適正化委員会（事故対策委員会、看取りケア委員会、ケア向上委員会）で可視化された入所者の情報を分析し業務内容や事故防止、認知症ケア等の検討につなげる。		
令和6年6月～7月	効果検証の実施  身体拘束適正化委員会（事故対策委員会、看取りケア委員会、ケア向上委員会）にて業務の効率化、職員の負担軽減・根拠ある認知症ケアについて、導入前と導入後を比較		

	し効果検証を行う。		
令和7年1月～2月	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）  身体拘束適正化委員会（事故対策委員会、看取りケア委員会、ケア向上委員会）にて効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら、事故防止、根拠ある認知症ケアを推進していく。また、職員の負担軽減になっているか、働きやすい職場環境になっているかも検証する。		
令和8年1月～2月	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）  身体拘束適正化委員会（事故対策委員会、看取りケア委員会、ケア向上委員会）にて効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら、事故防止、根拠ある認知症ケアを推進していく。また、職員の負担軽減になっているか、働きやすい職場環境になっているかも検証する。		
	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）		



令和9年1月～2月	<p>身体拘束適正化委員会（事故対策委員会、看取りケア委員会、ケア向上委員会）にて効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら、事故防止、根拠ある認知症ケアを推進していく。また、職員の負担軽減になっているか、働きやすい職場環境になっているかも検証する。</p>		
-----------	---	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組2 補助事業計画書



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 川西福祉会		
事業所名	短期入所生活介護事業所 そよ風の森 【 事業所番号：0672600129 】		
介護サービスの種類	指定短期入所生活介護事業所	定員数	20名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ND ソフトウェア Vital Beats [導入時期] 令和 6年 1月 日 [導入台数] 3台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	当施設は平屋の従来型特養で回路型になっており、現在、夜勤者1名で20人の入所者の支援を行っている。夜間の見守りについて30分～1時間おきに訪室しているが、在宅で生活している利用者の方がご利用されるため、環境の変化や認知症により行動が読めないことがある。職員1人の責任と身体的負担や精神的負担が大きい。センサーマットを利用しているが、足に触れたりするだけでも鳴ったり、マットが気になる入所者もいる。バイタルビーツを導入することで、入所者の情報（睡眠、覚醒、起き上がり、離床、呼吸数、心拍数）をリアルタイムで可視化が出来るとともに職員の身体的や心理的負担軽減を図る。また、ご利用者様の安眠を妨げていた可能性もあったため、睡眠状態を把握することで安眠につながる。今現在20人中2～3台のセンサーマット使用しているため、3台導入が妥当と考える。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 導入機器の使用方法について介護員が周知する。要観察入所者の状況を把握し、安全性を向上させる。職員の負担軽減。 ○2年目 導入したことでの安全性の検証と入所者への効果検証、サービスの質の向上、職員負担軽減。 ○3年目 さらなる安全性の検証とサービスの質の向上。		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 夜間の転倒等の事故減少。モニター確認することでの確かな訪室により、職員の負担軽減、業務の効率化。 ○2年目 介護サービスの質の向上、働きやすい職場づくり、介護人材定着 ○3年目 介護サービスの質の向上、働きやすい職場づくり、介護人材定着		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	身体拘束適正化委員会、事故対策委員会で導入前後の評価、検証等を行う。

事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和5年4月～5月	業務の状況分析・問題点の洗い出し 導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）事業計画に反映  身体拘束適正化委員会、事故対策委員会にて検討する。夜間帯、少ない職員で入所者を見守ることになり、職員の身体的精神的負担や不安がある。センサーマット使用しているが、誤作動でセンサーに振り回されることもあった。モニターを依頼され使用したところ、入所者の状態が分かりやすく良かった。		
令和5年6月～7月	機種選定・導入計画の検討 実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取 入眠状況の可視化のための機器について情報を収集し、職員にも意見を聴取しながら導入に向けて検討する。業務の負担軽減や身体的精神的負担の軽減につながることや、認知症入所者の生活のリズムの改善や根拠に基づく認知症ケ		

	アにつながることを期待する。		
令和5年8月	事前協議書の作成、提出		
令和5年10月	補助金内示		
令和5年11月	機器導入時期 補助金交付決定後速やかに導入する。		
令和6年1月～2月	職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等） 機器導入  機器導入の使用方法についてのマニュアルについて誰でも同じ操作が出来るように情報共有する。		
令和6年2月～3月	導入によるケア方法の見直し予定  身体拘束適正化委員会、事故対策委員会で可視化された入所者の情報を分析し業務内容や事故防止、認知症ケア検討につなげる。		
令和6年6月～7月	効果検証の実施  身体拘束適正化委員会、事故対策委員会で業務の効率化、職員の負担軽減・根拠ある認知症ケアについて、導入前と導入後を比較し効果検証を行う。		
令和7年1月～2月	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）		

	身体拘束適正化委員会、事故対策委員会で効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら、事故防止、根拠ある認知症ケアを推進していく。また、職員の負担軽減になっているか、働きやすい職場環境になっているかも検証する。		
令和8年1月～2月	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）  身体拘束適正化委員会、事故対策委員会で効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら、事故防止、根拠ある認知症ケアを推進していく。また、職員の負担軽減になっているか、働きやすい職場環境になっているかも検証する。		
令和9年1月～2月	効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）  身体拘束適正化委員会、事故対策委員会で効果検証の結果に基づいた業務改善の取り組みを検討し、日中の活動や入眠状況の数値の変化をみながら、事故防止、根拠ある認知症ケアを推進していく。また、職員の負担軽減になっているか、働		

	きやすい職場環境になっているかも検証する。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	特別養護老人ホームライフケア黒森【事業所番号：0670800408】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	80
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 株式会社 エヌジェイアイ 安心ひつじα [導入時期] 令和5年 10月(補助金決定後) [導入台数] 80台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購 入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有)	【現在の問題点】 長期的な課題として、介護人材不足による介護職員の負担増があります。特別養護老人ホームにおいては、要介護3～5の身体介護中重度の方が入所されており、看取り期にある方も含め、急な体調変化があります。それに加え、重度認知症の方の入所も増加しており、認知機能や筋力の低下による転倒事故も増えている現状があります。これらの問題点から、ご利用者の生活の安全を守り、職員の精神的不安や身体的負担の軽減を図っていきたくと考えます。 【導入台数の妥当性】 特別養護老人ホームにおいては、生活機能の向上や利用者個人の自立支援に向け、安心して生活できる環境を整えていく必要があると考え、ベッドセンサーを全ご利用者分80台導入をします。機器を効果的に活用していく為、令和2年度に介護ロボット導入支援の補助金を活用して、ユニット型ショートステイへ導入したベッドセンサー(バイタルビーツ)が有効であった為、特別養護老人ホームへ広めたいと考えます。今回導入する安心ひつじの機能をメーカーに確認したところ、バイタルビーツと同じ機能を持ち、且つ法人で使用している介護ソフト(NDソフトウェア)と連動するようになったとの情報から、安価な物で台数を多く導入したいと考えます。 【職員との導入意義の共有】 令和2年にICT導入支援事業費補助金を使用して、施設館内のネットワークをWi-Fi化させていただきました。その後、介護ロボット導入支援事業費補助金を活用し、ユニット型ショートステイやグループホームに見守りセンサーを導入し、効果の検証をしてきました。補助金の活用以外でも介護ソフト(NDソフトウェア)を導入し、介護ソフトと連動した、タブレット、ネックスピーカー、バイタル測定機器を導入しました。職員の作業時間の効率を図り、ご利用者の安心した生活に繋げることができています。この度の申請では、特別養護老人ホームと短期入所生活介護事業所に見守りセンサーを導入することによって、令和2年度に計画したものが完結するものと位置付けています。		

	導入にあたっては、これまで、プライバシーや尊厳の観点から、見守りセンサーに頼らない介護を実践してきましたが、見守りセンサーを融合させることでご利用者一人ひとりの生活パターンを理解し、眠りの浅い深いまで可視化できる機能を用い、※先回りできる支援、生活の質を高める介護を実践してまいります。介護職員に対しては会議や勉強会を通し、プライバシーや尊厳について理解を深め、共通理解しています。 ※正覚会では、ご利用者の思いやしいことを予測し、前もって対処できる支援を「先回りできる支援」と称します。
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 ・令和2年度年に導入した際、法人のリスクマネジメント委員会で作成した指針に基づき、職員研修や使用マニュアルを活かし、機器操作に習熟できるよう環境を整えます。 ・介護ロボット導入で、ご利用者、職員に対するメリット・デメリットを挙げ、介護ロボットに頼る介護ではなく、介護ロボットを活かす介護としていきます。 ○2年目 ・生活パターンの理解から、※先回りできる介護を理解します。 ・転倒、転落等のリスクを事前に発見・軽減し、ご利用者が安全に生活できる環境を整えます。 ○3年目 ・介護ロボット使用による対応データを集約・分析することで、ご利用者の行動傾向を理解し、先回りできる支援を行い、介護サービスの質の向上を図ります。 ・ご利用者の安心感、安全、満足感が得られる支援を提供します。 ※正覚会では、ご利用者の思いやしいことを予測し、前もって対処できる支援を「先回りできる支援」と言います。
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 ・施設で生活する利用者の尊厳、人権、プライバシーを深く理解し、介護職員としての倫理観を学ぶことができる。 ・夜間の睡眠状態の可視化ができ、適切な排泄介助等が可能になり安眠の確保に繋げ、先回りできる支援が可能となる。 ・転倒や事故を予防することができ、ご利用者の生活の安全を守ることが出来る。 ・身体状態の急変時の早期発見、早急な対応に繋げ、職員の精神的不安が軽減する。 ○2年目 ・生活パターンの理解により、それまで気付けなかった視点でのアプローチに繋げることが出来る。 ○3年目 ・介護職員の観察力や洞察力が向上し、ご利用者のQOLの向上に繋げることが出来る。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員の負担の軽減させることによって、職場環境の改善を図り、職員の離職率の低減を図る。</li> </ul>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートの実施を行い、身体的負担、精神的不安軽減の検証を行い、職員の意識の変化を確認します。</li> <li>・毎年実施している「ご利用者・ご家族満足度・意向調査」に項目追加し、調査を行います。</li> <li>・事故報告書にて導入前後の件数内容の比較をし評価を行います。</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内 容	経費概要	備考
R5年4月1日～ R5年5月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入に向けて業務状況の分析</li> <li>・問題点の洗い出し</li> </ul>		
R5年5月1日～ R5年6月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題となる背景より機種を選定</li> <li>・導入に向けた計画策定</li> </ul>		
R5年7月1日～ R5年8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入後の介護の在り方について話し合い。</li> <li>・導入目的の共有</li> <li>・実際に機器を使用する介護職員の意見聴取をする。</li> </ul>		
R5年8月1日～ R5年8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器導入にあたり、チーム体制の整備を行う。</li> <li>・係長、主任、副主任が主となり、活用とその効果の検証を行っていく。</li> <li>・補助金申請</li> </ul>		
R5年9月1日～ R5年10月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入手続き(県より交付決定後に実施)</li> <li>・機器使用にあたり指針の作成</li> <li>・職員の習熟及び教育の為、職員向けに研修会の実施</li> </ul>		
R5年11月1日～ R5年11月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者、ご家族への説明、同意をいただく。</li> </ul>		
R5年12月1日～ R6年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用方法についてマニュアルを作成する。</li> <li>・運用を開始する。</li> </ul>	購入費 3,920,000円(アムザ) 設置費等導入諸経費 1,479,900円(アムザ) 389,576円(メコム)	

R6年1月1日～ R7年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器導入による介護方法の評価と介護の見直し。効果の検証。</li> <li>・検証結果に基づき、業務改善の取り組みを再検討する。 (PDCAサイクル)</li> <li>・職員向けにフォローアップ研修</li> </ul>		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	ライフケア黒森 短期入所生活介護事業所 【事業所番号：0670800499】		
介護サービスの種類	指定短期入所生活介護	定員数	16
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 株式会社 エヌジェイアイ 安心ひつじα 【導入時期】 令和5年10月（補助金決定後）【導入台数】 16台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	【現在の問題点】 長期的な課題として、介護人材不足による介護職員の負担増があります。また、短期入所においてはご利用者の利用中における環境の変化に伴う心身状態の変化があります。それに加え認知症の方の利用も増加しており、認知機能や筋力の低下による転倒事故も増えている現状があります。これらの問題から、ご利用者の生活の安全を守り、職員の精神的不安や身体的負担の軽減を図っていききたいと考えます。 【導入台数の妥当性】 短期入所事業所においては、可能な限り在宅での生活を意識したうえでサービスを利用することが求められており、生活機能の向上や利用者個人の自立支援に向けて、環境を整えていく必要があると考え、ベッドセンサーを定員数の16台導入をします。機器を効果的に活用していくため、令和2年度に補助金を活用してユニット型ショートステイへ導入したベッドセンサー（バイタルビーツ）が有効であった為、短期入所事業所へも広めたいと考えます。今回導入する安心ひつじの機能をメーカーに確認したところ、バイタルビーツと同じ機能を持ち、且つ法人で使用している介護ソフト（NDソフトウェア）と連動するようになったとの情報から、安価なもので台数を多く導入したいと考えます。 【職員との導入意義の共有】 令和2年にICT導入支援事業費補助金を使用して、施設館内のネットワークをWi-Fi化させていただきました。その後、介護ロボット導入支援事業費補助金を活用し、ユニット型ショートステイやグループホームに見守りセンサーを導入し、効果の検証をしてきました。補助金の活用以外にも介護ソフト（NDソフトウェア）を導入し、介護ソフトと連動した、タブレット、ネックスピーカー、バイタル測定機器を導入しました。職員の作業時間の効率を図り、ご利用者の安心した生活に繋げることができています。この度の申請では、特別養護老人ホームと短期入所生活介護事業所に見守りセン		

	サーを導入することによって、令和2年度に計画したものが完結するものと位置付けています。 導入に当たっては、これまで、プライバシーや尊厳の観点から、見守りセンサーに頼らない介護を実践してきましたが、見守りセンサーを融合させることで、ご利用者一人ひとりの生活パターンを知り、眠りの浅い深いまで可視化できることから、※先回りできる支援、生活の質を高める介護を実践していきます。介護職員に対しては、会議や勉強会を通し、プライバシーや尊厳について理解を深め、共通理解しています。 ※正覚会では、ご利用者の思いやしいことを予測し、前もって対処できる支援を「先回りできる支援」と称しています。
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 ・令和2年度に導入した際、法人のリスクマネジメント委員会で作成した指針に基づき、職員研修や使用マニュアルを活かし、機器操作に習熟できるような環境を整えます。 ・介護ロボット導入で、ご利用者、職員に対するメリット・デメリットを挙げ、介護ロボットに頼る介護ではなく、介護ロボットを活かす介護としていきます。 ○2年目 ・生活パターンの理解から、※先回りできる介護を理解します。 ・転倒、転落等のリスクを事前に発見・軽減し、ご利用者が安全に生活できる環境を整えます。 ○3年目 ・介護ロボット使用による対応データを集約・分析することで、ご利用者の行動傾向を理解し、※先回りできる支援を行い、介護サービスの質の向上を図ります。 ・ご利用者の安心感、安全、満足感が得られる支援を提供します。 ※正覚会では、ご利用者の思いやしいことを予測し、前もって対処できる支援を「先回りできる支援」と称します。
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ・施設で生活する利用者の尊厳、人権、プライバシーを深く理解し、介護職員としての倫理観を学ぶことができる。 ・夜間の睡眠状態の可視化ができ、適切な排泄介助等が可能になり安眠の確保に繋げ、先回りできる支援が可能になる。 ・転倒や事故を予防することができ、ご利用者の生活の安全を守ることが出来る。 ・身体状態の急変時の早期発見、早急な対応に繋げ、職員の精神的不安が軽減する。 ○2年目 ・生活パターンの理解により、それまで気付かなかった視点でのアプローチに繋げることが出来る。 ○3年目 ・介護職員の観察力や洞察力が向上し、ご利用者のQOLの向上に繋げることが出来る。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員の負担の軽減させることによって、職場環境の改善を図り、職員の離職率の低減を図る。</li> </ul>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートの実施を行い、身体的負担、精神的不安軽減の検証を行い、職員の意識の変化を確認します。</li> <li>・毎年実施している「ご利用者・ご家族満足度・意向調査」に項目追加し、調査を行います。</li> <li>・事故報告書にて導入前後の件数内容の比較を行い評価を行います。</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
R5年4月1日～ R5年5月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入に向けて業務状況の分析</li> <li>・問題点の洗い出し</li> </ul>		
R5年5月1日～ R5年6月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題となる背景より機種を選定</li> <li>・導入に向けた計画策定</li> </ul>		
R5年7月1日～ R5年8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入後の介護の在り方について話し合い。</li> <li>・導入目的の共有</li> <li>・実際に機器を使用する介護職員の意見聴取をする。</li> </ul>		
R5年8月1日～ R5年8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器導入にあたり、チーム体制の整備を行う。</li> <li>・係長、主任、副主任が主となり、活用と効果の検証を行っていく。</li> <li>・補助金申請</li> </ul>		
R5年9月1日～ R5年10月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入手続き(県より交付決定後に実施)</li> <li>・機器使用にあたり指針の作成</li> <li>・職員の習熟及び教育の為、職員向けに研修会の実施</li> </ul>		
R5年11月1日～ R5年11月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者、ご家族への説明、同意をいただく。</li> </ul>		
R5年12月1日～ R6年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用方法についてマニュアルを作成する。</li> <li>・運用を開始する。</li> </ul>	購入費 784,000 円 (アマザ) 設置費等導入諸経費 456,580 円 (アマザ) 77,924 円 (メコム)	

R6年1月1日～ R7年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器導入による介護方法の評価と介護の見直し。効果の検証。</li> <li>・検証結果に基づき、業務改善の取り組みを再検討する。(PDCAサイクル)</li> <li>・職員向けにフォローアップ研修</li> </ul>		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)

2 補助事業計画書 (介護老人福祉施設)

事業者名	社会福祉法人 松風会		
事業所名	特別養護老人ホームはとみね荘 【事業所番号：067260095】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	62名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	<p>【製品名】 [導入台数]</p> <p>○介護ロボット ・パラマウントベッド製 眠りスキャン 2台 アップル製 iPad を付属</p> <p>○通信環境整備 ・バッファロー製 法人向け管理者機能搭載アクセシビリティ WAPM-1266R 24台 レイヤー2 Giga Poe スマートスイッチ 8ポート BS-GS2008P 1台 レイヤー2 Giga Poe スマートスイッチ 16ポート BS-GS2016P 3台 ネットワーク工事 一式 ネットワーク機器納入 一式</p> <p>[導入時期] 令和5年12月～令和6年1月</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>○現在の問題点 ・予算の逼迫や人口減の中で、介護・看護職員のマンパワーを増やすことは難しく、そのような中、入居者様の多様なニーズに応えるためには、アセスメントに基づいたケアと職員の効率的な働き方が必要となっている。</p> <p>○導入台数の妥当性 ・看取り期の方がいる時にはバイタルサイン等の把握のため、いない時は昼夜逆転傾向の方の睡眠アセスメントに、眠りスキャンを使用する。限られた台数を大切に使用することで、正確な効果測定を行いたい。</p> <p>○職員との導入意義の共有 ・全国老人福祉施設協議会主催の ICT 導入実地施設研修に複数の職員が参加し、実際に眠りスキャン等を導入している特養ホームを視察した。介護ロボットや ICT 機器を導入している施設では、そのことが日々のケアの改善へつながっていることを実感している。 またメーカーの説明も聞き、ケアの質の向上や介護負担の軽減のために介護ロボット等を実践してみたいという認識を職員で共有している。</p>		

機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器の目的や使用方法の職員研修を行う。</li> <li>モニターの記録や起居作動時の原因を職員間で共有し、入居者アセスメントに活用し、ケアプランの内容や個別ケアにつなげていく。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ多くの入居者の方の睡眠アセスメントを行い、その方の生活ベースに合わせたケア方法を確立する。</li> <li>看取り介護の方に対するバイタルサインから、事例を重ねたことにより、アセスメントをさらに細かくできるようになる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規入居の都度、睡眠アセスメントを行い、早めにその方に合わせた生活リズムを確立できるようにする。</li> <li>看取り介護時のアセスメントを分析し、より安楽で安心感を持って看取り期を過ごしていただけるようになる。</li> </ul>
期待される効果等	<p>○導入後 (翌年) 1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新機器を導入することで、新しい気づきを得て、ケア方法の改善につなげる。</li> <li>看取り介護実施時のバイタルサインを明確にすることで、職員の心理的負担感の軽減を図る。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠アセスメントを行い、適時適切な排泄ケアや起きる時間の把握による転倒・転落予防につなげる。</li> <li>看取り期の方のバイタルなど適切な記録を残し、ご家族の方に安心していただく。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機器導入でホーム全体のケアの質向上を図り、入居者皆様の満足度向上につなげる。</li> <li>機器導入で、入院日数を減らし、収支が改善され、職員待遇や労働環境の改善を進められる。</li> </ul>
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守り機器導入後に、介護時間の短縮、負担の軽減効果等のアンケートを職員に実施する。</li> <li>介護科リーダー会議等で、入居者の方の睡眠の質改善について、測定データに基づいて検証を行い、不眠や昼夜逆転解消事例等の分析をする。</li> </ul>

事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年6月7日	排泄予測デバイス業者説明		
令和5年6月16日	ICT機器導入施設視察 （眠りスキャン・インカム等について情報を得る）		
令和5年6月23日	介護科リーダー会議で施設視察報告。ICT機器導入を前向きに検討していくこととする。		
令和5年7月7日	業者とwi-fi設備、内線通話、ナースコールについて打合せ		
令和5年7月31日	業者とwi-fi設備、パソコンシステム、介護ソフトの打合せ		
令和5年8月25日	wi-fi設備整備と眠りスキャン導入を介護科リーダー会議で確認		
令和5年9月29日	法人理事会で見守り機器導入と通信環境整備の議案を協議		
令和5年10月～12月	補助金交付決定後、wi-fi設備整備の入札及び施工業者決定		
令和5年12月～ 令和6年1月	wi-fi設備整備工事及び見守り機器導入完了		
令和6年2月	導入機器について職員研修実施		
令和6年3月	事業実績報告書を提出		
令和6年4月～ 令和7年3月	導入機器活用と効果検証後、業務改善検討		1年目 実績報告
令和7年4月～ 令和8年3月	導入機器活用と効果検証後、業務改善検討		2年目 実績報告
令和8年4月～ 令和9年4月	導入機器活用と効果検証後、業務改善検討		3年目 実績報告

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用

する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

補助事業計画書 (短期入所生活介護)

事業 者 名	社会福祉法人 松風会		
事業 所 名	特別養護老人ホームはとみね荘 【事業所番号：0672600095】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	8名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] [導入台数] ○介護ロボット ・パラマウントベッド製 眠りスキャン 1台 ・アップル製 iPad を付属 ○通信環境整備 ・バッファロー製 法人向け管理者機能搭載アクセシビリティ WAPM-1266R 4台 [導入時期] 令和5年12月～令和6年1月		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購 入 ・ リース (契約期間 年 月 ～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	○現在の問題点 ・予算の逼迫や人口減の中で、介護・看護職員のマンパワーを増やすことは難しく、そのような中、利用者様の多様なニーズに応えるためには、アセスメントに基づいたケアと職員の効率的な働き方が必要となっている。 ○導入台数の妥当性 ・慣れない環境で落ち着かない方のための状況把握と原因分析のために眠りスキャンを使用する。限られた台数を大切に使用することで、正確な効果測定を行いたい。 ○職員との導入意義の共有 ・全国老人福祉施設協議会主催の ICT 導入実地施設研修に複数の職員が参加し、実際に眠りスキャン等を導入している特養ホームを視察した。介護ロボットや ICT 機器を導入している施設では、そのことが日々のケアの改善へつながっていることを実感している。 またメーカーの説明も聞き、ケアの質の向上や介護負担の軽減のために介護ロボット等を実践してみたいという認識を職員で共有している。		

機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 ・見守り機器の目的や使用方法の職員研修を行う。 ・モニターの記録や起居作動時の原因を職員間で共有し、利用者アセスメントに活用し、個別ケアにつなげていく。 ○2年目 ・どのような利用者に眠りスキャンを使用すれば、効果的なのか事例を重ね、健康観察、転倒予防につなげていく。 ・新規の利用者への職員の見守りの負担感を軽減させる。 ○3年目 ・事例を重ねたことにより、確証をもって、家族へも眠りスキャンのアセスメント結果を報告し、その方の在宅サービス継続へ協力できるようにしたい。
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ・新機器を導入することで、新しい気づきを得て、ケア方法の改善につなげる。 ・新規利用者の状況を明確にすることで、職員の心理的負担感の軽減を図る。 ○2年目 ・睡眠アセスメントを行い、適時適切な排泄ケアや起きる時間の把握等により転倒・転落予防につなげる。 ○3年目 ・機器導入でホーム全体のケアの質向上を図り、利用者様の満足度向上につなげる。 ・機器導入で、積極的に利用者を受け入れ、収支が改善され、職員待遇や労働環境の改善を進められる。
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	・見守り機器導入後に、介護時間の短縮、負担の軽減効果等のアンケートを職員に実施する。 ・介護科リーダー会議等で、入居者の方の睡眠の質改善について、測定データに基づいて検証を行い、不眠や昼夜逆転解消事例等の分析をする。

事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年6月7日	排泄予測デバイス業者説明		
令和5年6月16日	ICT機器導入施設視察 （眠りスキャン・インカム等について情報を得る）		
令和5年6月23日	介護科リーダー会議で施設視察報告。ICT機器導入を前向きに検討していくこととする。		
令和5年7月7日	業者とwi-fi設備、内線通話、ナースコールについて打合せ		
令和5年7月31日	業者とwi-fi設備、パソコンシステム、介護ソフトの打合せ		
令和5年8月25日	wi-fi設備整備と眠りスキャン導入を介護科リーダー会議で確認		
令和5年9月29日	法人理事会で見守り機器導入と通信環境整備の議案を協議		
令和5年10月～12月	補助金交付決定後、wi-fi設備整備の入札及び施工業者決定		
令和5年12月～ 令和6年1月	wi-fi設備整備工事及び見守り機器導入完了		
令和6年2月	導入機器について職員研修実施		
令和6年3月	事業実績報告書を提出		
令和6年4月～ 令和7年3月	導入機器活用と効果検証後、業務改善検討		1年目 実績報告
令和7年4月～ 令和8年3月	導入機器活用と効果検証後、業務改善検討		2年目 実績報告
令和8年4月～ 令和9年4月	導入機器活用と効果検証後、業務改善検討		3年目 実績報告

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用

する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 山形		
事業所名	地域特別養護老人ホームサンシャイン大森 【事業所番号：0690100532】		
介護サービスの種類	地域密着型介護老人福祉施設	定員数	20名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 Vital Beats 3in1 [導入時期] 令和 6年 1月 4日 [導入台数] 20台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有)	<p>現在の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当施設の特徴として、医療行為が必要な要介護者の受け入れを実施しており、看取り介護の提供も実践しています。呼吸、心拍の把握が、遠隔操作で把握できることは、介護負担の軽減にもなり、介護職員も客観的に情報を得、利用者への対処が早期に可能となるものです。体動、睡眠状況を得ることが可能なため、褥瘡予防、排せつパターンを知り、より良い介護支援が可能となります。</li> </ul> <p>導入台数の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド20台に対して、20台の機器を導入することで、夜間帯の配置基準を減らしつつ、質の良いサービスを提供することができると考えます。</li> </ul> <p>職員との導入意義の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠や覚醒状況の把握ができる、体動や離床のタイミングがわかり転倒予防に繋げられる等、デモ機を使用した際の感想を共有し、各利用者に対してどのような利点があるか、各職員で情報共有した。</li> </ul>		
	<p>機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後(翌年)1年目 介護職員が利用者の生活パターンを把握。夜間帯の介護職員配置の見直しを行いつつ、安定的な介護提供が可能となる。</li> <li>○2年目 利用者の必要なタイミングに合わせたケアを提供でき、QOL向上。機器の導入で業務量が軽減する事で質の高いケアを提供でき、利用者の満足度がアップする。</li> <li>○3年目 家族へ利用者の状況を共有でき、要望等を受け入れ、ケアプラン作成とケアを実践。</li> </ul>		

期待される効果等	<p>○導入後(翌年)1年目 睡眠パターンを知ることにより、日中の活動の在り方を検討し、利用者個人に合った、運動や活動につなげられる。 特に夜間、看取り期において、呼吸、心拍を遠隔操作で把握することでリアルタイムでの利用者の状況把握が常に行える。 全国的に介護職の人材不足が続く中、機器の導入で業務量を軽減し、質の良いサービスを提供できるようになる。</p> <p>○2年目 利用者の排せつパターンを知ること、事前の介護提供により、「待たせない」「転倒事故」の軽減につながる。</p> <p>○3年目 記録されたデータを基に分析し、介護が見える形で家族に説明でき、利用者、家族、施設の相互理解ができる。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<p>月1回のケア会議にて介護職員から聞き取りを実施。効果については、「見守り機器等を安全かつ有効に活用するための委員会」を設置し、データの活用方法や利用者からの声を反映していく。</p>

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
2023年11月1日 ～2023年11月30日	介護ロボット機器の発注	使用料及び賃借料 備品購入費 役務費	
2023年12月1日 ～2023年12月29日	介護ロボット機器の事前設定/ 構築	役務費	
2024年1月1日 ～2024年1月31日	介護ロボットの現地設定・試験運用	役務費	
2024年2月1日 ～2024年2月10日	試験運用に基づいた状況分析・問題点洗い出し		
2024年2月10日 ～2024年2月20日	本稼働に向けた最終操作指導	役務費	
2024年2月21日～	正式稼働		
～2024年3月31日	正式稼働後の効果検証		

2024年 4月 1日～	検証結果に基づき業務改善の継続実施		
--------------	-------------------	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 山形		
事業所名	サンシャイン大森ショートステイセンター 【事業所番号：0670100320】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	10名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 Vital Beats 3in1		
	【導入時期】 令和 6年 1月 4日 【導入台数】 10台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	現在の問題点 ・当事業所の特徴としては医療行為の有無に関わらず、比較的ADLが高い利用者の利用も多く、転倒のリスクも高い現状にあります。体動や睡眠状況を得ることが可能なため、日中の活動量や夜間帯の睡眠状況を把握し転倒防止に繋げることができます。当施設では在宅酸素や経鼻胃管や膀胱留置カテーテルなど利用されている方も多くご利用いただいております。併せて認知症を発症されている利用者も多く利用されており、ルート管理ができず転倒やルート抜きのリスクが問題となっています。そのため、今回機器を導入することで利用者の安全を確保し、より良いサービスを提供できると考えます。当事業所は10台のベッドを有しており、特別養護老人ホームサンシャイン大森に併設しています。		
	導入台数の妥当性 ・ベッド10台に対して10台の機器を導入することで、夜間帯の配置基準を減らしつつ、質の良いサービスを提供することができると考えます。 職員との導入意義の共有 ・睡眠や覚醒状況の把握ができる、体動や離床のタイミングがわかり転倒予防に繋がられる等、デモ機を使用した際の感想を共有し、各利用者に対してどのような利点があるか、各職員で情報共有した。		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後（翌年）1年目 介護職員が利用者の生活パターンを把握。夜間帯の介護職員配置の見直しを行いつつ安定的な介護提供が可能となる。 ○2年目 利用者の必要なタイミングに合わせたケアを提供でき、QOL向上と転倒事故の減少。		

	○3年目 機器を導入して把握できた利用者の生活状況をご家族様に共有し、ご家族様の要望も取り入れた支援をすることで、在宅生活が継続できる。
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 睡眠パターンを知ることにより、日中の活動の在り方を検討し、利用者個人に合った、運動や活動につなげられる。 全国的に介護職の人材不足が続く中、機器の導入で業務量を軽減し、質の良いサービスを提供できるようになる。 ○2年目 利用者の排せつパターンを知ること、事前の介護提供により、「待たせない」「転倒事故」の軽減につながる。 ○3年目 記録されたデータを基に分析し、介護が見える形で家族に説明でき、利用者、家族、施設の相互理解ができる。
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	月1回のケア会議にて介護職員から聞き取りを実施。効果については、「見守り機器等を安全かつ有効に活用するための委員会」を設置し、データの活用方法や利用者からの声を反映していく。

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
2023年11月1日 ～2023年11月30日	介護ロボット機器の発注	使用料及び賃借料 備品購入費 役務費	
2023年12月1日 ～2023年12月29日	介護ロボット機器の事前設定/ 構築	役務費	
2024年1月1日 ～2024年1月31日	介護ロボットの現地設定・試験運用	役務費	
2024年2月1日 ～2024年2月10日	試験運用に基づいた状況分析・問題点洗い出し		
2024年2月10日 ～2024年2月20日	本稼働に向けた最終操作指導	役務費	

2024年 2月 21日～	正式稼働		
～2024年 3月 31日	正式稼働後の効果検証		
2024年 4月 1日～	検証結果に基づき業務改善の継続実施		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年日までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 山形		
事業所名	特別養護老人ホームサンシャイン大森 【事業所番号：0670100783】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	90名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【製品名】 Vital Beats 3in1 【導入時期】 令和 6年 1月 4日 【導入台数】 90台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入 / リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>現在の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の特徴としては、従来型特養施設としてサービスを提供しており、医療行為が必要な要介護者の受け入れの強化、及び看取り介護の提供も実施しています。</li> <li>その中で、頻回な巡視による利用者の睡眠の質の低下、介護職員の心身への負担、サービス提供への十分な時間が確保できない等の問題が生じています。</li> <li>呼吸、心拍の把握が、遠隔操作で把握できることは、介護負担の軽減にもなり、介護職員も客観的に情報を得、利用者への対処が早期に可能となるものです。体動、睡眠状況を得ることが可能なため、褥瘡予防、排せつパターンを知り、より良い介護支援が可能となります。</li> <li>導入台数の妥協性             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド90台に対して、90台の機器を導入することで、夜間帯の配置基準を減らしつつ、質の良いサービスを提供することができると考えます。</li> <li>・職員との導入意義の共有</li> </ul> </li> <li>睡眠や覚醒状況の把握ができる、体動や離床のタイミングがわかり転倒予防に繋げられる等、デモ機を使用した際の感想を共有し、各利用者に対してどのような利点があるか、各職員で情報共有した。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後(翌年)1年目 介護職員が利用者の生活パターンを把握できる。睡眠の質の向上。夜間帯の介護職員配置の見直しを行いつつ安定的な介護提供が可能となる。</li> <li>○2年目 利用者の必要なタイミングに合わせたケアを提供でき、QOL向上。機器の導入で業務量が軽減することで質の高いケアを提供でき、利用者の満足度がアップする。</li> <li>○3年目 家族へ利用者の状況を共有でき、要望等を受け入れ、ケアプラン作成とケアの実践ができる。</li> </ul>		

期待される効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後(翌年)1年目 睡眠パターンを知ることにより、日中の活動の在り方を検討し、利用者個人に合った運動や活動につなげられる。 特に夜間、看取り期において、呼吸、心拍を遠隔操作で把握し、介護の時間が短縮できる。 全国的に介護職の人材不足が続く中、機器の導入で業務量を軽減し、質の良いサービスを提供できるようになる。</li> <li>○2年目 利用者の排せつパターンを知ること、事前の介護提供により、「待たせない」「転倒事故」の軽減につながる。</li> <li>○3年目 記録されたデータを基に分析し、介護が見える形で家族に説明でき、利用者、家族、施設の相互理解ができる。</li> </ul>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<p>月1回のケア会議にて介護職員から聞き取りを実施。効果については、「見守り機器等を安全かつ有効に活用するための委員会」を設置し、データの活用方法や利用者からの声を反映していく。</p>

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
2023年11月1日 ～2023年11月30日	介護ロボット機器の発注	使用料及び賃借料 備品購入費 役務費	
2023年12月1日 ～2023年12月29日	介護ロボット機器の事前設定/ 構築	役務費	
2024年1月1日 ～2024年1月31日	介護ロボットの現地設定・試験運用	役務費	
2024年2月1日 ～2024年2月10日	試験運用に基づいた状況分析・問題点洗い出し		
2024年2月10日 ～2024年2月20日	本稼働に向けた最終操作指導	役務費	
2024年2月21日～	正式稼働		
～2024年3月31日	正式稼働後の効果検証		

2024年 4月 1日～	検証結果に基づき業務改善の継続 実施		
--------------	-----------------------	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人舟和会 一三三三 三三三三		
事業所名	特別養護老人ホームえんじゅ荘 【事業所番号：0672500220】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	84名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 〔導入時期及び台数〕	〔製品名〕 パラマウントベッド（エスパシアシリーズ/KA-N1721J） 〔導入時期〕 令和5年12月1日～12月31日 〔導入台数〕 10台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の課題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>えんじゅ荘は平成6年4月に開所し今年で29年目となり、施設内外の修繕や器具備品等の更新も多くなっています。器具備品の1つである介助用ベッドは94台ありますが、令和2年度から毎年10台程度更新を続け令和5年7月にも10台更新しましたが、まだ約50台は30年前の介助用ベッドを使用している状況です。</p> <p>えんじゅ荘では、令和2年度にナースコールシステムの更新を行っており、ナースコールシステムと連動する介助用ベッドを選定しました。選定したパラマウントベッドは、離床センサーが内蔵されており、利用者様が起き上がった際はナースコールでお知らせがあり「見守り体制」の強化を図っています。</p> <p>えんじゅ荘の勤務形態は、3交代制を採用しています。以前は2交代制でしたが夜勤労働時間の長時間労働解消から令和2年度より3交代制へ移行しました。一方で3交代制を採用したことにより、職員の手薄な時間帯が生じやすことから「見守り機器」の導入は今後も必須としています。</p> <p>以上のことから、令和5年度の介助用ベッドを追加で更新し、見守り体制の強化を図り、ご利用者に安心して過ごして頂けるように施設整備を推進していきます。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目 見守り体制の強化を図り、ご利用者様に安心して過ごして頂く</p> <p>○2年目 見守り体制の強化を図り、ご利用者様に安心して過ごして頂く</p> <p>○3年目 見守り体制の強化を図り、ご利用者様に安心して過ごして頂く</p>		
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 見守り体制の強化と介護職員の移動負担軽減</p> <p>○2年目 見守り体制の強化と介護職員の移動負担軽減</p> <p>○3年目 見守り体制の強化と介護職員の移動負担軽減</p>		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<p>ナースコールシステムは、アイホン株式会社のビーナースを運用しており、ナースコールカメラと離床センサー内蔵ベッドを連動させています。職員はナースコール用のスマホを携帯しナースコール時にすぐに対応しています。今回、介助用ベッドを追加更新することでナースコールシステムと連動するベッドが増設され、見守り体制がより強化されます。</p> <p>効果検証の方法は、介護従事者より、数項目による5段階評価を実施し、導入効果について検証致します。</p>

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
5年7月25日 ～5年7月31日	ベッド更新状況の確認と追加更新の有無について確認		
5年7月25日 ～5年7月31日	導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）		
5年7月25日 ～5年7月31日	機種選定・導入時期の検討		
5年7月25日 ～5年7月31日	実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取		
5年8月1日 ～5年8月15日	ベッド見積書徴収	4,286,700円	見積書参照
5年12月1日 ～5年12月31日	センサー内蔵ベッド導入		
6年1月1日 ～6年1月31日	見守り体制の評価と課題分析		
6年2月1日 ～6年2月29日	課題分析に基づいた見守り体制や業務改善の取組検討		

--	--	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	株式会社カインド・ホーム		
事業所名	グループホーム沖郷【事業所番号：0691900120】		
介護サービスの種類	認知症対応型共同生活介護	定員数	18名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] AIセンサーセンティアア3(センサーカメラ)・aans(介護用生体センサー) [導入時期] 令和5年12月中旬 [導入台数] ・センサーカメラ 居室用18台、トイレ用4台、フロア7台、非常口6台 計35台 ・介護用センサー-aans6台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入、リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	現在、aansを12セット導入している。残り6室への導入とセンサーカメラを導入したい。職員がペットセンサー反応で居室訪問するが、訪問の必要がない反応も多数あることが分かった。AIカメラの設置で不要な訪問(職員の負担)を削減したい。 ICT介護ソフト、生体センサー、居室カメラ、バイタル機器、会計、勤怠、全てのシステムを一気通貫で連携させている施設は限内ではなく、全国的にも小規模施設ではないのではないかと聞いている。今回の事業が採択されれば小規模施設の介護施設ICT化(見守りのAI化)のモデルケースになると考えている。 介護ロボット導入の意義として以下職員と共有 ・複数の利用者をステーションで同時に見守りできることによるケアの質の向上、並びに利用者の生活、生体睡眠情報の共有化。 ・職員の身体的・精神的不安の軽減化 ・昼夜を問わず利用・記録できる事によるケア対応の迅速化		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目・センサーカメラの使用方法的習得 ・利用ご家族への機器導入使用についての申し入れ ○2年目・所内カンファレンスによる機器活用の振り返り ・職員負担軽減度の数値アップ ○3年目・SDソフトとの連携メリットの向上 ・バイタル数値・睡眠状況に基づくケアの対応方法向上		
期待される効果等	・機器導入前と導入後の訪問回数の比較 ・機器使用利用者のバイタル数値記録履歴の検証 ・利用者の転倒・転落ヒヤリハット回数の比較 ・夜間睡眠覚醒リズムグラフの分析による生活パターンの改善 ・介護ソフト連携での記録内容の検証		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	・機器導入前と導入後の訪問回数の比較 ・機器使用利用者のバイタル数値記録履歴の検証 ・利用者の転倒・転落ヒヤリハット回数の比較 ・夜間睡眠覚醒リズムグラフの分析による生活パターンの改善 ・介護ソフト連携での記録内容の検証		

交付決定 ～ 令和5年12月31日	交付決定後3か月以内に機材導入 利用者ご本人並びにご家族に対して機器の使用目的及び効果についての説明を実施する。又機器で得た情報に関しては事業所にて厳重に管理する。研修計画を作成する。	カメラ35セット ペットセンサー6セット	
令和6年1月1日 ～ 令和6年12月31日	・職員に対し機器取扱説明会を実施し運用開始 ・習熟度アップについてフォローアップ研修を実施し必要に応じメーカーお客様窓口を活用しての教育を行う。 ・導入担当者は管理者、機器の活用・効果検証担当は介護職員により選定とする。又実施内容について所内カンファレンスで協議・共有とする。 ・導入によるケア方法の見直し、訪室・声掛けの要否を検討し利用者生活リズム改善に努める		
令和7年1月1日 ～ 令和7年12月31日	【導入効果検証およびフォローアップ】 ・導入によるケア方法の見直し、訪室回数の減少度合い ・転倒・転落等ヒヤリハット発生回数 【業務改善の取組】 ・早朝や夜間等の介護職員の見守り業務の負担軽減 ・安心して他の業務に当たれる職場環境の整備 ・利用者の睡眠を妨げる事無く介護サービスを提供		
令和8年1月1日 ～ 令和8年12月31日	上記2年間を検証し、さらにPDCAサイクルで業務改善して顧客満足を得る		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること  
 ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
--------	----	------	----





2 補助事業計画書

事業者名	株式会社カインド・ホーム		
事業所名	デイサービスカインド・ホーム萩生田【事業所番号：0671900520】		
介護サービスの種類	通所介護	定員数	19名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] AI センサーセンチネア3(センサーカメラ)・aams(介護用生体センサー) [導入時期] 令和5年12月中旬 [導入台数] ・センサーカメラ 居室用1台、トイレ用2台、フロア2台 ・介護用センサーaams6台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	現在、宿泊型デイサービスを行っており利用者への介護対応としてはナースコール呼出対応・簡易センサーでの訪問声掛け等の人的サポートが主で職員の精神的身体的な負担が大きい 介護ロボット aams とセンチネア3 導入の意義として以下職員と共有 ・複数の利用者をステーションで同時に見守りることによるケアの質の向上、並びに利用者の生活、生体睡眠情報の共有化 ・職員の身体的・精神的不安の軽減化 ・昼夜を問わず利用・記録できる事によるケア対応の迅速化		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目・各センサーの使用方法的習得 ・利用ご家族への機器導入使用についての申し入れ ○2年目・所内カンファレンスによる機器活用への振り返り ・職員負担軽減度の数値アップ ○3年目・NDソフトとの連携メリットの向上 ・バイタル数値・睡眠状況に基づくケアの対応方法向上		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 ・初めての機器使用でありメーカー・サポート窓口等を利用して取り扱い操作に慣れ、機器との業務一体化を構築する ○2年目 ・看取り成いはバイタル変化の場合情報共有し家族への早期連絡 ・職員の負担軽減に伴い施設全体のケアの質の向上につなげる ○3年目 ・機器自体の活用にとどまらず他 IT 機器との相乗効果 ・科学的数値に基づくケア実施、記録活用しヒヤリハット防止		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	・機器導入前と導入後の訪問回数の比較 ・機器使用利用者のバイタル数値記録履歴の検証 ・利用者の転倒・転落ヒヤリハット回数の比較 ・夜間睡眠覚醒リズムグラフの分析による生活パターンの改善 ・介護ソフト連携での記録内容の検証		

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
交付決定 ～ 令和5年12月31日	交付決定後3か月以内に機材導入 利用者ご本人並びにご家族に対して機器の使用目的及び効果についての説明を実施する。又機器で得た情報に関しては事業所にて厳重に管理する。研修計画を作成する。	カメラ5セット ベットセンサー6セット	
令和6年1月1日 ～ 令和6年12月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員に対し機器取扱説明会を実施し運用開始</li> <li>習熟度アップについてフォローアップ研修を実施し、必要に応じメーカーお客様窓口を活用しての教育を行う。</li> <li>導入担当者は管理者、機器の活用・効果検証担当は介護職員により選定とする。又実施内容について所内カンファレンスで協議・共有とする。</li> <li>導入によるケア方法の見直し、訪室・声掛けの要否を検討し利用者生活リズム改善に努める</li> </ul>		
令和7年1月1日 ～ 令和7年12月31日	【導入効果検証およびフォローアップ】 ・導入によるケア方法の見直し、訪室回数の減少度合い ・転倒・転落等ヒヤリハット発生回数 【業務改善の取組】 ・早朝や夜間等の介護職員の見守り業務の負担軽減 ・安心して他の業務に当たれる職場環境の整備 ・利用者の睡眠を妨げる事無く介護サービスを提供		
令和8年1月1日 ～ 令和8年12月31日	上記2年間を検証し、さらにPDCAサイクルで業務改善して顧客満足を得る		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること  
 ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人みゆき福祉		
事業所名	地域密着型特別養護老人ホームみずほの里 【事業所番号：0691300073】		
介護サービスの種類	地域密着型特別養護老人ホーム	定員数	20名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	〔製品名〕 眠りスキャン 〔導入時期〕 令和5年12月15日 〔導入台数〕5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の課題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者20名に対して職員が一人体制で夜間の勤務に従事している。個室の造りであるため、プライバシーには十分配慮して訪室を行う必要があり、睡眠状態がわからないまま訪室することは職員への精神的負担が大きい。また、利用者様の睡眠を妨げることもある。</li> <li>・眠りSCANは利用者様の睡眠状態を手元のスマートフォンでモニタリングできるため、巡回訪室を必要最小限に抑えられ、職員の身体的負担の軽減が期待できる。また、ナースコールとの併用で夜勤職員が管理できるのは眠りSCAN5台と見込んでいる。</li> </ul>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後（翌年）1年目 使用方法と機器の特徴を理解する</li> <li>○2年目 取得したデータで訪室パターンを見直す 睡眠状態を把握し日中の関わり方を分析する</li> <li>○3年目 改善した業務を振り返り、新たな改善点を見出す</li> </ul>		
期待される効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後（翌年）1年目 事故発生時の原因究明に活用ができ、転倒事故の減少が期待される。</li> <li>○2年目 データ収集により、ご利用者への日中の関わり方が確立され、夜間の睡眠の質の向上が見込まれる。 職員の不要な巡視が減少することで、身体的な負担も軽減される。</li> <li>○3年目 職員の身体的・精神的負担の軽減により、労働環境の改善が見込まれる。</li> </ul>		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<p>例）介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、収支の改善等について、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故件数の比較</li> <li>・職員のアンケート調査（訪室回数、精神的負担、身体的負担、利用者様の状況等）</li> </ul>
------------------------------------	--

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
年 月 日 ～ 年 月 日			
令和5年12月	発注・納品・機器説明会（担当者の決定）		
令和6年1月	運用開始		
令和6年3月	使用職員アンケート実施		
令和6年3月末	職員アンケートの集計と検証		
令和7年3月	使用職員アンケート実施		
令和7年3月末	職員アンケートの集計と検証		
令和8年3月	使用職員アンケート実施		
令和8年3月末	職員アンケートの集計と検証		

毎月一回実施	介護ロボット検討委員会にて運用状況の確認と活用方法の検討を行う		
--------	---------------------------------	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人山形公和会		
事業所名	特別養護老人ホームみこころの園 【事業所番号：0670100726】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	84名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN Wi-Fi アクセスポイント増設整備 [導入時期] 令和6年1月 [導入台数] 10台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	当施設は従来型特養であり、夜間帯は22名～30名の入所者様を1名の介護職員で対応している。夜間不穏になる入所者様や看取りの入所者様もあり、対応に精神的・身体的負担がかかっている。 眠り SCAN 導入により、入所者様のベッド上での状況データを活用し、生活状況の可視化や入所者様の睡眠状況を把握することで、生活リズムの改善と介護職員の負担軽減につなげたい。また看取りの入所者様の心拍数、呼吸数をリアルタイムでモニタリングできるため、体調変化への迅速な対応を行いたい。 7月に販売メーカーよりプレゼンとデモを実施していただき、入所者様の生活リズムや夜間の睡眠状況が把握でき生活習慣の改善と、介護職員の負担軽減にもつながるとの介護職員から意見があり、夜間不穏になる入所者様、看取りの入所者様が常時10名ほどいることから、10台の導入を行いたい。 また現在の Wi-Fi 環境はアクセスポイント周辺の居室でのみ使用できる環境となっており、眠り SCAN を導入するにあたり、今後導入台数を増やすことも検討していることから、どの居室でも使用できるよう、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設を行いたい。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 ・見守り業務の負担軽減 ・入所者様の生活リズムの改善 ・看取りの入所者様のリアルタイムモニタリングによる状態観察 ・転倒・転落事故予防 ○2年目 ・見守り業務の負担軽減 ・入所者様の生活リズムの改善 ・看取りの入所者様のリアルタイムモニタリングによる状態観察 ・転倒・転落事故予防 ○3年目 ・見守り業務の負担軽減 ・入所者様の生活リズムの改善 ・看取りの入所者様のリアルタイムモニタリングによる状態観察 ・転倒・転落事故予防		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ・入所者様の生活リズムの確認、夜間の睡眠状況のデータの活用を行い、ケアの見直しを行うことで睡眠の質の向上が期待でき、介護職員への負担軽減にもつながる。 ・看取りの入所者様の心拍数、呼吸数をリアルタイムでモニタリングできることにより体調の変化への迅速な対応ができる。 ・転倒・転落事故防止が期待できる。 ○2年目 ・入所者様の生活リズムの確認、夜間の睡眠状況のデータの活用を行い、ケアの見直しを行うことで睡眠の質の向上が期待でき、介護職員への負担軽減にもつながる。 ・看取りの入所者様の心拍数、呼吸数をリアルタイムでモニタリングできることにより体調の変化への迅速な対応ができる。 ・転倒・転落事故防止が期待できる。 ○3年目 ・入所者様の生活リズムの確認、夜間の睡眠状況のデータの活用を行い、ケアの見直しを行うことで睡眠の質の向上が期待でき、介護職員への負担軽減にもつながる。 ・看取りの入所者様の心拍数、呼吸数をリアルタイムでモニタリングできることにより体調の変化への迅速な対応ができる。 ・転倒・転落事故防止が期待できる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	眠り SCAN 導入後、介護職員へアンケート調査を行い、入所者様の生活リズム改善や介護業務負担軽減の効果聞き取り、満足度を確認する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
令和5年6月1日 ～ 令和5年6月20日	業務の状況分析、問題点の洗い出しを行う。		
令和5年6月26日 ～ 令和5年7月31日	問題点改善の為、業者よりプレゼン・デモを実施してもらい、介護職員の意見を徴取しながら導入機種を選定、導入計画を検討する。導入担当者は総括介護主任とし、導入・活用・効果検証の担当者は全介護職員で行っていく。		
令和5年12月1日 ～ 令和6年12月31日	施設内無線状況 LAN 配線状況の確認。		
令和6年1月1日 ～ 令和6年1月31日	アクセスポイント増設工事の実施。 機器導入。 使用方法の習熟、及び教育・研修計画を実施する。		

令和6年2月1日 ～令和6年2月15日	導入によるケア方法の見直しの実施。		
令和6年2月16日 ～令和6年2月28日	効果検証のためのアンケートを実施する。 実績報告を行う。		
令和7年2月1日 ～令和7年2月28日	効果検証結果に基づいた業務改善の取組を検討する。		
令和8年2月1日 ～令和8年2月28日	効果検証結果に基づいた業務改善の取組を検討する。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	医療法人 宏友会		
事業所名	老人保健施設 うらら【事業所番号：0650880024】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設 入所	定員数	100床
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名]パラマウントベッド ① エスパシアシリーズ KA-N171J 離床センサーベッド ② 眠りSCAN NN-1520 眠りSCAN [導入時期] 令和5年11月 [導入台数]各2台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	超高齢の認知症の方や障害のある入所者に離床センサー内蔵のベッドで見守りをすれば、ベッドからの転倒転落の予防と、介護職員の事故の心配からくる心労や労務負担を軽減できると考える。更に、眠りSCANを導入することで入所者の睡眠と覚醒を評価しながら夜間の眠りの浅い時に排泄誘導で尿失禁を軽減し、睡眠を阻害せず排泄支援ができると考えた。上記パラマウントベッド2台離床センサー付き+眠りスキャン2台の介護ロボット技術で見守り、排泄支援ができると考えて導入を計画した。		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 転倒・転落のリスクがある方のアセスメント評価 夜間、尿失禁がある方の排泄アセスメント ○2年目 リスクがある方への行動分析と対策 尿失禁への定時排泄誘導計画 ○3年目 見守りの必要性を評価する 夜間の尿失禁の効果		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 危険な行動の心理状態が何かを把握できる 夜間の排泄誘導のタイミングを把握できる ○2年目 入所者へ適切なケア計画(安全指導や見守り)を実施できる 入所者へ適時快適な排泄計画(排泄誘導)を実施できる ○3年目 対応の優先順がわかるので、職員の心労や負担が軽減している 適切な排泄誘導により失禁が軽減しオムツ交換などの介助が減る		
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	行動評価の記録と、ナースコール(アイフォン)のベッドセンサー連動データ 排泄計画の記録と、眠りスキャンの睡眠、覚醒のデータ		

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
R5年 7月 14日	介護主任会議(金子係長・石塚主任・堀井ケアマネ)転倒事故の状況分析 排泄ケアの課題		
R5年 8月 18日	機種選定・導入計画の検討 介護主任会議(金子係長・石塚主任・堀井ケアマネ)パラマウント社・岡崎医療社		展示説明
R5年 8月 21日	部長会議へ稟議申請(導入担当者:目下部業務部長) 岡崎医療社と商談	見積書検討	管理部決済
R5年 8月 22日	介護副主任会議(樋渡介護副・金子係長)実際に機器を現場に介護指導するリーダーヘレクチャ		職員会議
R5年 8月 25日	機器導入時期検討11月 部長会議(佐藤経営アドバイザー・矢島企画部長・村上事務長・目下部業務部長)	補助金申請	部長会議
R5年 11月	職員の習熟及び教育・研修計画・マニュアル整備(介護係長)職員研修(入所部会)		職員会議
R5年 12月	導入によるケアの方法の見直し予定 入所職員会議		職員会議
R5年1月中旬～ R7年1月中旬	効果の検証、結果に基づいた業務改善の取り組み評価		フィードバック

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備(導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者(介護職員等)の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画(マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討(実績報告から3年目までの取組)





2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 平田厚生会		
事業所名	寿康園指定介護老人福祉施設(従来型) 【事業所番号：0673200267】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	36名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	〔製品名〕 センサー付低床3モーターベッド一式(17台) 〔導入時期〕 令和6年1月末日 〔導入台数〕 17台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>【現在の問題点】 従来型の夜勤業務は多くの入所者を少数の職員で対応しており、不穏状態の方や排泄意により覚醒する方の対応に追われている。現在は既存の見守りシステムで対応しているが、センサーの台数は不足している状態にある。既存の離床センサーは取り付け位置をその都度検討が必要であることや、ベッド移行や変更後、電源スイッチの入れ忘れ等が問題点としてあったが、ベッドに見守りセンサーが内蔵されていればこれらの問題が解消される。</p> <p>【導入台数の妥当性】 全床にセンサーを使用することにより、利用者に合わせて単体のセンサーを移動させる手間が減り、操作リモコンが統一されるため職員の機器に対する混乱が少なくなるものと考えます。</p> <p>【職員と導入意義の共有】 普段ベッドからの転倒や転落のリスクが少ない利用者でも、その日の精神状態により予期せぬ行動による転倒等の介護事故で考えられる勤務時間中常時見守りを行うことの心身両面の負担軽減を図り、事故防止と早期発見が可能となり、利用者安全の確保のため導入が必要と認識を共有している。</p>		
機器を導入することにより達成する目標(機器導入の翌年から3年間、年度毎)	<p>○導入後(翌年)1年目 ベッドの操作に慣れ、ご利用者の安全確保のため活用できる。</p> <p>○2年目 異動、新入職員に対し、操作方法の説明ができる。</p> <p>○3年目 ベッド内蔵センサーをご利用者に合わせて設定できる。</p>		

期待される効果等	<p>○導入後(翌年)1年目 センサーがベッド内蔵のため、単体センサーのような必要な場所への移設の手間が減る。 ベッド内蔵センサーで耐久性、精度が向上することで職員の負担軽減、利用者のサービスの質の向上が見込まれる。</p> <p>○2年目 1年目の効果の継続が見込まれる。</p> <p>○3年目 1～2年目の効果の継続が見込まれる。</p>
効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、見守りの強化による転倒等のアクシデント軽減等、委員会で評価し記録する。

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和5年4月21日	夜勤時不穏要素のある入居者対応の問題を解消するため、ベッドに見守りセンサー内蔵の機種を選定。また、施設で使用している殆どがフランスベッドであり、他メーカーだと操作方法等が異なり使用しにくいいためM2を選定。あんしんの絆に連動できるか確認するため、フランスベッド、ユニティネットワークと打ち合わせを行う。		
令和5年4月25日	フランスベッド並びにユニティネットワークから協力していただきデモをする。あんしんの絆に連動できるか確認。		
令和5年5月12日	業者よりベッド内蔵センサーのメリット、デメリットの説明		
令和5年5月24日	センサー内蔵ベッドM2のデモ。フランスベッドメーカーより機能の説明。約2週間ベッドを借り現場で評価。		

令和5年6月7日	メーカー来園しデモ機の引き上げ。ナースコールとの連動を確認良好。		
令和5年6月22日	センサー内蔵ベッドM2評価について、センサーの反応も早く危険も早く察知できるとのことで高評価。フランスベッドM2導入に向け見積もりを業者に依頼する。		
令和5年7月27日	令和5年度山形県介護ロボット導入支援事業費補助金募集の要項が届き申請準備に入る。		
令和5年9月 令和6年1月末	補助金交付決定後、理事会にて工事請負業者及び入札執行を申請。		
令和6年2月～ 令和6年2月末	設置完了。		
令和6年3月 令和6年3月末	職員へ機器操作勉強会を行う。		
令和6年4月 令和7年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。ベッドの操作に慣れ、ご利用者の安全確保のため活用できるようにする。		
令和7年4月 令和8年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。異動、新入職員に対し、操作方法の説明ができるようにする。		
令和8年4月 令和9年3月末	職員への負担軽減状況や使用状況の聞き取りによる状況分析。ベッド内蔵センサーをご利用者に合わせて設定できるようにする。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	医療法人徳洲会		
事業所名	医療法人 徳洲会 介護老人保健施設 梅花苑 【事業所番号：0652580036】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設	定員数	100名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【介護ロボット】：パナソニックホールディングス株式会社「ライフレンズサービス」 【通信環境整備】：パナソニックマーケティングジャパン株式会社「ネットワーク環境構築工事」、TB-eye 株式会社「クリアトックカム」 [導入時期] 令和6年2月28日予定 [導入台数]100床分		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の課題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>当法人が運営する介護老人保健施設では、療養棟2棟で入所定員が100名、夜勤帯は1名の看護職員と各棟2名の介護職員の計5名による体制となっている。夜間帯は1時間に1度、計12回/日の定期巡視による利用者の安否確認を実施している。特に見守りが必要な利用者10～12名に対しては、定期巡視の後に再度確認のため追加巡視を実施しており、職員の負担がかなり大きい。夜間は、居室近くにある南・北側のサブステーションで職員が待機しているものの、手前側の居室に見守り強化の利用者を入れる為、奥側居室の利用者の見守りが手薄になり、うつぶせ寝による窒息や転倒・転落事故の危険度が増してしまう。過去にうつぶせ寝による窒息し事故が1件起きている。</p> <p>これらの課題解決に向け、見守り支援機器を全室導入し、巡視業務の削減及び効率化を図り、職員の負荷軽減と事故件数の減少を図りたいと考えている。</p> <p>また見守り支援機器導入と合わせ、ネットワーク環境およびインカム導入整備を行い、施設全体でのICT活用モデル構築を推進する。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>【目標】見守り機器導入を図ることによる夜間業務の効率化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り機器を活用し、夜間の巡視回数を1時間毎→2時間毎に減少させ、更に見守り必要な方の入室回数も半減化する</li> <li>・見守り機器導入による転倒・転落事故を半減する（現状：月平均8件→目標4件以下）</li> </ul> <p>○導入後（翌年）1年目 操作説明会や活用ミーティングの定期開催と併せ、機器活用の現場リーダーを育成し、スタッフの理解度向上と活用定着化への取り組みを図る。職員へのアンケート調査による業務負担軽減の効果を踏まえながら、定期巡視のICT置き換え試行を図る（導入後半年後を目途に実施）</p> <p>○2年目 蓄積したデータをもとに、利用者の生活パターンや見守りニーズを分析し、利用者個々に即した個別ケアを推進する。 具体的には見守り支援機器による睡眠リズムを把握し、夜間帯における睡眠時間をしっかり確保頂くようなケアの在り方、また利</p>		

	<p>利用者の状態に応じたアラート運用の適正化を行い、利用者/職員それぞれの負担が少ない最適な運用化を目指す。 これらの取組を行い、定期巡視の全面的なICT置き換え化を図る。</p> <p>○3年目 前年の実績を踏まえ、施設内での活用方法の見直しを決定し、利用者、スタッフ双方にとって負担の少ない巡視運用モデルを確立する</p>
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 見守り機器「ライフレンズ」を導入することで、訪室する前に利用者の様子確認や状況把握をスタッフの端末で行ない、介助の必要性を判断する運用に変更。少ない人員体制でも利用者への様子確認の頻度を落とさず、負担軽減を図ることが期待できる。 これによりナースコール呼び出しによる緊急対応の回数を導入前比20%削減する</p> <p>○2年目 前年の実績を踏まえ、対象者の選定や施設内での活用方法の見直しを行い、ナースコール呼び出しによる緊急対応の回数を導入前比50%削減する。 また、看取り期など要観察者の見守りについてはライフレンズを活用することで急変時の対応をスムーズにし、介護職員の精神的負担の軽減化をはかり、離職率低減につなげる事が期待できる。 また利用者のケアについても、ライフレンズの導入で利用者の生活リズムを把握し、個々の生活リズムに応じた個別ケアをはかることで、利用者の睡眠確保につなげることができると、これらの効果最大化を目標とした運用モデルを検討・実践していく。</p> <p>○3年目 前年までの運用、実績をふまえ、利用者、スタッフ双方にとって負担の少ない巡視運用モデルを確立し、職員の心的、身体的負担による離職を導入前比50%以上削減する。</p>
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<p>業務負担軽減効果についてはWEBアンケートを活用し、導入前後での業務負荷/疲労度等を5段階で定期的に評価、数値化を図る。効果測定にあたってはシステム導入先のパナソニック社と連携し、協業で推進していく。</p>

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2023年9月1日 ～2023年9月8日	メーカーによる現地調査・設置場所、必要な工事の内容の確認		
2023年12月20日	採択決定後、取り扱い業者へ見守り支援機器および、通信環境整備（WiFi/インカム）正式発注・システム手配		
2024年2月21日～ 2022年2月28日	見守り支援機器および、通信環境整備（WiFi/インカム）設置工事及びシステム設定。		
2024年3月1日 ～2024年3月15日	職員への導入説明・サービス試行運用開始 定着化に向けた勉強会（メーカー同席）		
2024年4月1日	サービス本運用開始 操作説明会や活用ミーティングの定期開催による、職員の理解度向上と活用定着化への取り組み		
2024年6月27日 ～2024年7月31日	本運用後3カ月検証 WEBアンケートを活用し、導入前後での業務負荷/疲労度等の調査。 調査結果を踏まえた問題点の洗い出し、課題対応/導入計画の修正・再検討 （以降、3年目まで定期的にアンケート実施）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人敬寿会		
事業所名	特別養護老人ホーム沼木敬寿園 【事業所番号：0690100375】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	[製品名] 眠りスキャン Wi-fi 設備 [導入時期] 令和5年12月31日 [導入台数] 15台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	夜勤体制では、少ない職員で利用者の健康管理に努めているが、システムを導入することで、緊急時の対応も迅速に行うことができることに、日々の健康管理にかかる業務負担を格段に軽減でき、その結果として、業務効率、生産性が向上する。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 眠りスキャンの使用方法を把握し、活用することができる。 ○2年目 眠りスキャンを活用し、利用者の健康管理を行い介護時間の短縮ができる ○3年目 眠りスキャンの活用方法を熟知し、介護時間の短縮の他、介護負担を軽減し、業務の効率化を図ることができる		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果 ○2年目 介護時間の短縮に伴う、業務効率化。システムチェックに利用者の健康管理ができ、生産性の向上を図ることができる。 ○3年目 効果検証を行いながらよりよい活用方法を見出し、より業務の効率化を図ることができる。		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	例）介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、収支の改善等について、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等
------------------------------------	--

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和5年9月1日 ～10月31日	業務の状況分析・問題点の洗い出し 機種選定・導入計画の検討 導入担当者・チーム体制整備 実際に機器を使用する者の意見聴取		
令和5年11月1日 ～11月30日	Wi-fi 工事	1,767,000円	
令和5年12月1日 ～12月31日	眠りスキャン 導入	1,515,000円	
令和6年1月1日 ～3月31日	職員の習熟及び教育・研修計画 導入によるケア方法の見直し 予定		
令和6年4月1日 ～令和9年3月31日	効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人敬寿会		
事業所名	特別養護老人ホーム鈴川敬寿園 【事業所番号：0690200136】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠りスキャン Wi-fi 設備 [導入時期] 令和5年12月31日 [導入台数] 15台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	夜勤体制では、少ない職員で利用者の健康管理に努めているが、システムを導入することで、緊急時の対応も迅速に行うことができることに、日々の健康管理にかかる業務負担を格段に軽減でき、その結果として、業務効率、生産性が向上する。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 眠りスキャンの使用方法を把握し、活用することができる。 ○2年目 眠りスキャンを活用し、利用者の健康管理を行い介護時間の短縮ができる ○3年目 眠りスキャンの活用方法を熟知し、介護時間の短縮の他、介護負担を軽減し、業務の効率化を図ることができる		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果 ○2年目 介護時間の短縮に伴う、業務効率化。システムチェックに利用者の健康管理ができ、生産性の向上を図ることができる。 ○3年目 効果検証を行いながらよりよい活用方法を見出し、より業務の効率化を図ることができる。		

効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度、収支の改善等について、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等
-------------------------------------	---

3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内容	経費概要	備考
令和5年9月1日 ～10月31日	業務の状況分析・問題点の洗い出し 機種選定・導入計画の検討 導入担当者・チーム体制整備 実際に機器を使用する者の意見聴取		
令和5年11月1日 ～11月30日	Wi-fi 工事	1,480,000円	
令和5年12月1日 ～12月31日	眠りスキャン 導入	1,515,000円	
令和6年1月1日 ～3月31日	職員の習熟及び教育・研修計画 導入によるケア方法の見直し 予定		
令和6年4月1日 ～令和9年3月31日	効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備 (導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者 (介護職員等) の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画 (マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討 (実績報告から3年目までの取組)





## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人天童福祉厚生会		
事業所名	特別養護老人ホーム清幸園 【事業所番号：0671600203】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	80
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 〔導入時期及び台数〕	〔製品名〕 眠りスキャン（パラマウントベッド株式会社）導入台数 6台 モバイル端末 導入台数 10台 〔導入時期〕 令和 6年 1月		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>部屋順での起床介助や定期的な排泄介助など、職員起点の画一的ケアになっている面がある。睡眠状態の把握ができておらず、適切なタイミングでの排泄介助が行えていない。また、体調変化の早期察知は、看取り介護にも大いに活用できる。</p> <p>当施設は3つのグループに分かれておりますので、各グループ2台ずつの計6台と考えております。</p> <p>現在、令和元年導入のココヘルパで連携しているスマートホンが古くなり、画面の感度の不具合、バッテリーの持ちが悪い等が見られます。スマートホンを更新し、ココヘルパ及び眠りスキャンと連携し、質の高い介護サービスを行うためにスマートホン10台の更新を行いたい。</p>		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	<p>○導入後（翌年）1年目 眠りスキャン導入に伴う研修の実施やマニュアルを作成し、機器操作の習熟を図り、日常業務へ取り込む。 睡眠データを活用し夜間の訪室回数を減らす。</p> <p>○2年目 睡眠データを活用した情報共有と介護サービスを提供する。</p> <p>○3年目 2年目同様</p>		
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目 入居者の睡眠の質を高め、眠りの深さをモニターできることで動き出しの予測ができ、転倒や転落事故のリスクを軽減する。</p> <p>○2年目 目覚めの状況や入居者のリズムに応じた質の高いケアを行うことができる。</p> <p>○3年目 2年目同様</p>		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	看取り介護時の振り返り 入居者の睡眠状態の改善 職員へのアンケート 介護事故・ヒヤリハット数の減少
------------------------------------	--

## 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
令和5年11月20日 ～令和5年12月31日	導入打合せ、通信環境等確認		
令和6年1月1日 ～令和6年1月31日	眠りスキャン、モバイル端末導入 取扱説明、研修会 睡眠データの活用方法勉強会	1,899,040円	
令和6年3月	職員へのアンケート 介護事故、ヒヤリハットの検証		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 天童福祉厚生会		
事業所名	明幸園ショートステイセンター 【事業所番号：0671600922】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	18名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[介護ロボット製品名] 眠りスキャン (パラマウントベッド株式会社) 導入台数 3台 [通信環境整備製品名] Wi-Fi 工事 デジタルインカム (ティーピーアイ) 導入台数 2台 [導入時期] 令和6年3月1日		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="checkbox"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の課題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>①介護従事者の身体・心理的な負担の解消、②離職者の減少、③ケアの質の維持、この3点を課題と整理している。特にスタッフ配置数の少ない夜間帯業務の負担軽減と、サービスの品質管理が喫緊の課題と言える。</p> <p>介護従事者の献身的な働きに頼りきりの現状を変え、また、サービスの信頼性・安全性を担保するため、新しい介護ロボット機器の導入を積極的に進めていきたい。介護従事者のサポート体制を強固にしつつ、その効果は利用者の満足度向上に寄与することを確信している。</p> <p>眠りスキャンは睡眠状態やベッド上での状態変化に合わせた対応を可能にし、インカムは情報共有の迅速化・業務効率化を図る、これらの効果を期待している。</p> <p>当事業所は定員18名。その規模から眠りスキャンは3台が妥当と思われる。また、職員配置はシフト制で、日中帯2名以上、夜間帯1名としていることから、インカム機器2台が必要と考えている。</p> <p>眠りスキャン、デジタルインカムについては、併設の介護老人福祉施設で先行導入しており、その後の検証でも、安眠を妨げない個別ケアの実践、転倒などのリスクヘッジに確かな効果を発揮しているとの報告が上がっていた。同機種の機能・特性は軽度者の多い短期入所サービスでも大きな成果が見込まれるとの意見も付され、導入を期待する声が高まっている。</p>		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 ・ 介護ロボット導入に伴う職員研修やマニュアル等を作成し、機器操作の習熟を図り、日常業務に取り込む。 ・ ご利用者の眠りの状態に合わせてケアを実践する。安眠を妨げない個別ケアの実践、転倒などのリスクヘッジに努める。 ○2年目		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>眠りの見える化をすすめ夜間見守りのオペレーションを改善し、介護・業務負担の軽減と効率化を図る。</li> </ul> ○3年目 使用実績を踏まえて検証を行い、昼夜を問わず、より効果的な活用を図るとともに、睡眠データを活用して、個別ケアの質の向上を目指す。
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ・ ご利用者の眠りの深さをモニターすることで睡眠を妨げないケアが可能になり、睡眠の質が高まることを期待している。また、動き出しの予測が可能になり、転倒・転落事故のリスク軽減が期待される。 ・ 睡眠分析に基づく効果的な実践データを利用者家族とも共有することで、導入効果を在宅生活まで波及できる。 ○2年目 ○3年目 ・ 介護従事者の心理的、身体的負担を軽減することで労務環境の改善を図り、離職率低減につながることを期待している。
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	<ul style="list-style-type: none"> <li>併設施設と協働して効果検証のための委員会を組織し、導入事例の振り返り、インシデント事例、アクシデント事例の集計と検証を行う。</li> <li>ご利用者家族の協力得て、睡眠の質改善について測定データに基づいて検証を行う。併せて、ご利用者の身体・精神的状態の変化、ご家族の負担軽減の実態などの情報も共有したい。</li> </ul>

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2024年1月22日 ～2024年1月26日	導入打ち合わせ。設置位置および管理用PC等確認。		
2024年2月5日 ～2024年2月9日	施設内無線状況 LAN 配線状況確認。 現行接続 IP アドレスの確認、電源状況の確認。		
2024年2月13日 ～2024年2月16日	無線 LAN 配線工事の実施。	500,000 円	
2024年2月19日 ～2024年2月22日	眠りスキャン等装置導入・通信確認。 ソフトインストール作業・サーバー設置作業。		
2024年2月28日 ～2024年2月29日	勤務形態に合わせて、取扱い説明を2日間で実施予定。 運用例、インシデント対策等。	403,260 円 205,040 円	

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ寒河江 【事業所番号：0671200228】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護指定事業者	定員数	46名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、SH-M20AX-B (スマホ) [導入時期] 令和5年12月1日 [導入台数] 眠り SCAN (10台)、眠り SCAN eye (2台)、スマホ (3台)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室に入ってケアを行っていると言視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。</p> <p>昨年度「眠り SCAN 5台、眠り SCAN eye 1台」を導入しましたが、弊社他施設では以前より「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を導入しており、先に導入した施設が勉強会等を開き使用方法やデータの利用方法等を勉強してきたかもあり、当施設のスタッフも短時間で使い方を習得していったようです。前回導入してからそれほど時間が経っていませんが、当施設のスタッフから「眠り SCAN、眠り SCANeye の増台をしてほしい。」との声も上がっています。</p> <p>昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事です。その際、スタッフの心身の負担は計り知れないものです。</p> <p>今回「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を増台できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用して感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。</p> <p>また、機器増台に伴い使用するユニットも増えるためスマホの台数も増台したいと考えております。</p>		

機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○2年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○3年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○2年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○3年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠り SCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。 また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ選用法の評価等を行っていきたい。

### 3 事業・導入スケジュール

期間 (予定)	内 容	経費概要	備考
2023年2月28日～	「眠りSCAN 5台」「眠りSCAN eye 1台」の導入		
2023年2月28日～	「眠りSCAN」運用委員会出席 (各施設の「眠りSCAN」担当者勉強会)		
2023年5月22日～	「眠りSCAN」運用委員会出席 (各施設の「眠りSCAN」担当者勉強会)		
2023年6月～	スタッフから「眠りSCAN、眠りSCAN eye」増台希望の話あり		
2023年8月1日～ 2023年8月28日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2023年12月1日～	交付決定後、すぐに発注。(予定)	眠りSCAN+eye+スマホ=1,347,650円(税別)	
2024年1月1日～ 2027年3月31日	スタッフへアンケート調査(予定)		
2023年9月1日～	「眠りSCAN」運用委員会出席 (各施設の「眠りSCAN」担当者勉強会) (予定)		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備 (導入・活用・効果検証の各担当者)、エ実際に機器を使用する者 (介護職員等) の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画 (マニュアル整備等)、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討 (実績報告から3年目までの取組)

## 2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ吉原 【事業所番号：0670101781】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護指定事業者	定員数	44名
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	【製品名】 眠り SCAN eye 【導入時期】 令和5年12月1日 【導入台数】 眠り SCAN eye 3台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しましては、お客様の居室内に入ってケアを行っていると言視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。 昨年度「眠り SCAN 4台、眠り SCAN eye 1台」を導入しましたが、弊社他施設では以前より「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を導入しており、先に導入した施設が勉強会等を開き使用方法やデータの利用方法等を勉強してきたこともあり、当施設のスタッフも短時間で使い方を習得していったようです。前回導入してからそれほど時間が経っていませんが、当施設のスタッフから「眠り SCAN eye の増台をしてほしい。」との声も上がっています。 昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事です。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。 今回「眠り SCANeye」を増台できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用して感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○2年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○3年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。		

期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○2年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○3年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠り SCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行ってまいります。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行ってきたい。

## 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
2023年2月28日～	「眠り SCAN 4台」「眠り SCAN eye 1台」の導入		
2023年2月28日～	「眠り SCAN」運用委員会出席（各施設の「眠り SCAN」担当者勉強会）		
2023年5月22日～	「眠り SCAN」運用委員会出席（各施設の「眠り SCAN」担当者勉強会）		
2023年6月～	スタッフから「眠り SCAN eye」増台希望の話あり		
2023年8月1日～ 2023年8月28日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2023年12月1日～	交付決定後、すぐに発注。（予定）	眠り SCANeye×5＝ 276,500円（税別）	
2024年1月1日～ 2027年3月31日	スタッフへアンケート調査（予定）		

2023年9月1日～	「眠りSCAN」運用委員会出席（各施設の「眠りSCAN」担当者勉強会）（予定）		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）



2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ中桜田 【事業所番号： 0670101708 】		
介護サービスの種類	介護予防特定施設入居者生活介護	定員数	4 4 人
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、SH-M20AX-B(スマホ)、HP ProDesk 400 G7 SFF、PHILIPS 液晶ディスプレイ 21.5 型、WAPS-AG1266DHP、BS-GSL2008P [導入時期] 令和 5 年 1 2 月 1 日 [導入台数] 眠り SCAN (8 台)、眠り SCAN eye (1 台)、SH-M20AX-B(スマホ) (2 台)、HP ProDesk 400 G7 SFF (1 台)、PHILIPS 液晶ディスプレイ 21.5 型 (1 台)、WAPS-AG1266DHP (6 台)、BS-GSL2008P HUB (2 台)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 ・ リース (契約期間 年 月 ~ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に関しては、お客様の居室に入ってケアを行っている注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時、センサーマット等で対応しているが「眠り SCAN」を使用出来れば離床する前の対応が可能となりスタッフの心身の負担もかなり軽減されると思います。あわせて「眠り SCAN eye」も導入できれば訪室の必要性も事前にわかり、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、弊社他施設でも「平成 29 年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を 14 台導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、当施設スタッフからも「眠り SCAN」導入希望の声も上がっており、まずは導入のきっかけとして今回 8 台導入していきたいと思っております。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。 昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事です。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。		

	今回「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を導入できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を導入すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッフの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。 現在、介護ソフトを使用する Wi-Fi 環境はありますが、「眠り SCAN」を導入するにあたって、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設が必要となってきます。またアクセスポイントの増設に伴い、ハブの入替なども必要となってきます。
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から 3 年間、年度毎)	○導入後 (翌年) 1 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○2 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○3 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○2 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○3 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	年度毎に数回、スタッフへのアンケート等のデータを取り、常に状況を検証する。また弊社は「眠り SCAN」を使用している施設も多いため、ユーザー施設が集まり定期的に社内勉強会を行っています。そこへの参加も行いながら導入の有効性を検証していきたい。 また、先に導入している施設から使用方法の指導、データの分析の仕方など導入施設のスタッフへ運用方法の評価等を行ってきたい。

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2023年3月～	スタッフから「眠りSCAN、眠りSCAN eye」導入の話あり。		
2023年4月10日	「眠りSCAN」を使用している弊社他施設の見学		
2023年8月1日～ 2023年8月28日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2023年12月1日～	交付決定後、すぐに発注。 (予定)	眠りSCAN+眠りSCANeye+スマホ+AP 増設工事＝ 1,842,200 (税別)	
2024年1月1日～ 2027年3月31日	スタッフへアンケート調査(予定)		
2023年9月1日～	「眠りSCAN」運用委員会出席（各施設の「眠りSCAN」担当者勉強会）(予定)		

#### ※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	株式会社タイヨウ		
事業所名	ソーレ天童 【事業所番号：0671600773】		
介護サービスの種類	介護予防特定施設入居者生活介護	定員数	42名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCAN、眠り SCAN eye、HP ProDesk 400 G7 SFF、PHILIPS 液晶ディスプレイ 21.5 型、 [導入時期] 令和 5 年 1 月 2 日 [導入台数] 眠り SCAN (10 台)、眠り SCAN eye (1 台)、HP ProDesk 400 G7 SFF (1 台)、PHILIPS 液晶ディスプレイ 21.5 型 (1 台)、		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	入居者の中には認知症等で不穏要素がある入居者もいらっしゃいます。日中はスタッフも多いので、目が届くのですが夜間帯に聞かしては、お客様の居室に入ってケアを行っているかと注視すべき入居者にも目が届きにくい状況です。その様な利用者には就寝時、センサーマット等で対応しているが「眠り SCAN」を使用出来れば離床する前の対応が可能となりスタッフの心身の負担もかなり軽減されると思います。あわせて「眠り SCAN eye」も導入できれば訪室の必要性も事前にわかり、不要な接触も避けられ、スタッフの負担も軽減されます。また、弊社他施設でも「平成 29 年度福工連携による安心介護モデル創出事業費補助金」を使い「眠り SCAN」を 14 台導入させて頂きました。導入した施設のスタッフからは「眠り SCAN 無しでは不安になる。」との声も上がっています。特に夜間時のスタッフの負担軽減が確認されております。導入後はスタッフからの希望があり、少しずつの増台を重ねて現在は全床に設置となりました。今回、当施設スタッフからも「眠り SCAN」導入希望の声も上がっており、まずは導入のきっかけとして今回 10 台導入していきたいと思っております。今後は使用頻度とスタッフの慣れに伴い、増台も検討しています。 昨今、県内でもコロナウイルスの感染者も増えており弊社グループの他施設でも入居者の感染も確認されております。以前は感染したら入院という流れでしたが、現在は施設での療養という事です。その際、スタッフの心身的な負担は計り知れないものです。今回「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を導入できれば、万が一当施設でも入居者に感染者が発生した場合「眠り SCAN、眠り SCAN eye」を使用すれば感染者との不用意な接触も避けられて、スタッ		

	フの負担も軽減され感染拡大のリスクも軽減されるのかと思います。 現在、介護ソフトを使用する Wi-Fi 環境はありますが、「眠り SCAN」を導入するにあたって、現在の環境に追加のアクセスポイントの増設が必要となってきます。またアクセスポイントの増設に伴い、ハブの入替なども必要となってきます。
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から 3 年間、年度毎）	○導入後（翌年）1 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○2 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ○3 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。
期待される効果等	○導入後（翌年）1 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○2 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。 ○3 年目 ・業務の効率化と業務負担軽減。スタッフの心身負担の軽減。 ・訪室の回数も減るのでコロナ等の感染症の感染拡大の予防。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、収支の改善等について、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等

### 3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内 容	経費概要	備考
2023年3月～	スタッフから「眠りSCAN、眠りSCAN eye」導入の話あり。		
2023年4月10日	「眠りSCAN」を使用している弊社他施設の見学		
2023年8月1日～ 2023年8月28日	補助金事前協議書の作成、提出。		
2023年12月1日～	交付決定後、すぐに発注。（予定）	眠りSCAN+眠りSCANeye+PC+スマホ=1,471,800円 (税別)	
2024年1月1日～ 2027年3月31日	スタッフへアンケート調査（予定）		
2023年9月1日～	「眠りSCAN」運用委員会出席（各施設の「眠りSCAN」担当者勉強会）（予定）		

#### ※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 新庄かつろく会		
事業所名	介護老人保健施設 新庄薬師園 【事業所番号：0651180010】		
介護サービスの種類	介護老人保健施設 入所サービス	定員数	60床
（介護ロボットの製品名） （通信環境整備の製品名） 導入時期及び台数	[製品名] 株式会社 リンクジャパン 「eMamo」 [導入時期] 令和5年12月中旬 [導入台数] 70台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	・現在、自力動作が不安定な利用者、ナースコールの使用が不可能な利用者については離床センサーを使用している。センサーが鳴る頻度での訪室には限りがある。また職員が頻回に訪室することで利用者のストレスにつながっている部分も多くなっており、見守り機能で対応することで職員・利用者双方にメリットがあると考ええる。		
機器を導入することにより達成する目標（機器導入の翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 ・見守り機能による業務負担の軽減。 ・動画録画によりベッド周辺での事故発生原因が特定できる。 ・居室内の事故報告件数の10%減を目指す。 ○2年目 ・1年目同様、ひやりはっと・事故対策の分析の強化を図る。 ・ADL状況の把握・確認と環境設定ができる。 ・居室内の事故報告件数の20%減を目指す。 ○3年目 ・居室内ひやりはっと報告件数の20%減を目指す。 ・効率的に安全確認ができ、リスクの軽減と情報の共有ができる。		
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ・訪室回数の減少により、業務負担の軽減と利用者のストレス軽減に繋がる。 ・ベッド周辺の事故発生時に早急な対策がとれる。 ○2年目 ・多職種での事故分析ができやすい。 ・本人・家族への事故対策の説明が分かりやすくなる。 ○3年目 ・ひやりはっと場面での事故対策を具体的に講じることができる。		

効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	・ユニット会議時に使用状況の確認、対象者の再選定を行う。 ・離床センサーと見守り機能を合わせて使用した事故報告書の集計。 ・見守り機能における録画データで事故発生状況の検証。
------------------------------------	---

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
R4年10月～ R5年2月	見守り機能のある福祉機器の情報収集		業務検討委員会
R5年3月～4月	Wi-Fiでの見守り機能がある福祉機器の見積もりを依頼 同時にオンラインでの製品説明を受ける		各主任、業務検討委員会
R5年4月～5月	Wi-Fi環境の調査依頼と調査を実施		事務
R5年7月～8月	デモ機の確認 各職種参加により、実際に見守り機能の対象者をどのように決定していくか検討		各主任、業務検討委員会
R5年8月～12月	各ユニット、各職種で見守り機能対象者の選定 現時点での離床センサー使用者の身体・精神状況と離床センサー使用の必要性の再確認 機器使用における注意点の説明 マニュアル作成		各ユニット、安全対策担当委員、全職員
R5年12月	見守り機能導入による本人・家族への説明		支援相談員、介護支援専門員
R5年12月～ R6年3月	機器操作の不明点の洗い出し 使用状況の確認 マニュアルの再確認		全職員
R6年4月～ R7年3月	使用状況の確認 事故発生の映像分析 職員の業務負担軽減の確認 マニュアルの再検討		全職員
R7年4月～ R8年3月	使用状況の確認 事故発生の映像分析 職員の業務負担軽減の確認		全職員

	マニュアルの再検討		
--	-----------	--	--

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）